

可認局遞驛

明治二十年一月十五日發兌

聯合社

卒業生  
大學  
英學士

藤林對平  
林潤貞一

英學

藤井重樹

第壹年級

# 英吉利法律講義錄

第十八號

英學

英學士  
山田喜之助

英學

英學士  
山田喜之助

目次

## 英吉利法律學校



目次

英吉利法律講義錄

○法學通論

法學士 山田喜之助

○親族法

法學士 山田喜之助

○私犯刑法

法學士 奧田十義人

○經濟學

駒井重格

○組合法

法學士 松野貞一郎

○判決錄

法科大學 卒業生 植村俊平

惡意

Malice

是ナリ例ヲ舉テ之ヲ示サンニ極メテ簡易ナル事實ハ通常人ノ知了スル所ナレハ偶一人アリテ其事ヲ知ラサルモ其之レヲ知ラサルハ其者ノ不幸ニシテ法律上其不知ヲ證明スルコト成シ得ヘキノ業ニアラス果シテ然ラハ法律上各人ハ或ル簡易ナル事實ヲ知り居ルモノト見做ラサルハト何ソ異ナランヤ又證據法中甲者乙者ニ對シ若干ノ手續ヲ盡ストキニハ乙者ハ甲者ヨリ或ル事柄ノ通知ヲ受ケタルモノト見做サレ知ラサルコトモ知り居ルモノトセラルハコトアルナリ此等ハ自ラ別問題ニ屬スレトモ揭ケテ他日ノ叅考ニ供ス

○惡意

惡意トハ英語ニ「マリス」ト云ヒ即チ人ヲ害スルノ意ヲ稱スルナリ道德上ヨリ云ヘハ善キコトモ法律ノ目ヨリ見テ惡意ト爲スモノアリ約シテ言ヘハ人ヲ害スルノ意思是レヲ惡意ト云フ尤モ辨慶カ安宅ノ關ニ

於テ義經ヲ打チシコトハ惡意トナルヤ否ハ知ラサレトモ苟モ人ヲ害  
スルノ意アレハ之ヲ惡意ト爲ス故ニ惡意即チ害意ト云フモ可ナリ而  
シテ法律ノ許サ、ルコトヲ他人ニ對シ爲ストキハ正ニ是レ惡意ノ本  
色ナリトス

英米法ハ右ノ外ニ法律上ノ惡意ト唱フルモノアリ即チ實際惡意ノ有  
無ニ關セス不法ノ所爲アレハ外形ノミニヨリ惡意ト爲サル、コトア  
リ此等ハ各其適當ノ場所ニテ之ヲ論シ總論トシテ論スルコト能ハサ  
ルナリ

卷二 各論ノ部

第四編

今日マテ講セシ處ハ法律原論ノ總論ニシテ即チ法學ニ必要ナル普通  
ノ志想ヲ講セシモノナリ之レヲ法典ニ譬フレハ所謂總則ニシテ法律

學全体ニ共通ノ論綱ナリ以下之ニ反シテ各論ト稱スルモノニシテ即チ法律ノ小區別ニ屬スル概畧ヲ述ヘントス余ハ之ヲ爲スニ際シ甚ダ困難ヲ覺ヘタリソハ他ニ非ラス抑モ各論ヲ講スルニ專ハラ論理ニ從フモノト慣習ニ從フモノトノニアリ余ハ此二者何レニ從テ講スルヲ以テ尤モ適當ナルヤニ付キ甚ダ迷ヲ生シタリキ之レ只ニ余ノミナラス諸學者ト雖モ亦此ノ迷ヲ持セサルモノナシ然レトモ余ハ第二ノ方法ニ從テ講義ヲ爲サント欲ス何トナレハ二者何レニ從フモ一得一失アリテ之ヲ講スル者ニ於テハ敢テ其勞力ニ差異ナシト雖モ唯聽者ノ便不便ヲ察シ之ヲ決スルニ於テハ今日英吉利法律ノ著述ヲ觀ルニ專ハラ理論的ノ順序ニ從フモノヨリ寧ロ慣習ニ基ケル順序ニ從フモノヲ以テ多シトス又新タナル事ヨリ舊キ事ハ人ノ耳朶ニ徹シ易ク殊ニ法學通論ノ如キ初學者ノ研究スル者ニ在テハ第二ノ方法ニ從フコソ

Transactions.  
Dispositive facts.

眞ニ適當ナラン扱テ第一ノ方法ニ從フモノホルランド氏ノ法理學アリ該書タル夙ニ高論卓識ヲ以テ名聲世ニ喧シト雖モ理論ニノミ偏シテ却テ英米法ノ神髓ヲ失フタルノ憾アリ而シテ單ニ法理學ヲ講スルニハ適當スルモ法學通論ヲ講スルニ至テハ其不當タルヲ免カレサルナリ殊ニ第二ノ方法即慣習ニ從フトキハ契約法、私犯法、財産法等ノ區別アリト雖モホルランド氏ノ法理學ニ至テハ此區別ニ依ラス是唯ニ從來ノ英吉利法律書ニ異ナルノミナラス佛蘭西、伊太利及亞米利加ノ或州ニ於テモ既ニ成典ヲ編製シタリト雖モ餘リ見サル處ノ新案ナレハ法律ヲ學ヒ得タル者ニ適當セルモ初學者ノ爲メニハ其當ヲ得タルモノニ非サルナリ

○取引ヲ論ス

取引ナル語ハ法律學中屢々散見スル處ニシテ英語ニ之ヲトランスア

クシヨント云フ此取引ナルモノハ權利及義務ヲ創生シ又ハ移轉シ或ハ消滅セシムル處ノ大効力アル一種ノ行爲ニシテ嘗テ總論ニ述ヘシ生効事實ノ一種ニ屬スルモノナリ

取引ナル語ニ種々ノ意味アリテ或場合ニ於テハ單純ノ所爲ヲ云ヒ或場合ニ於テハ復雜ノ所爲ヲ云フ又一人ノ行爲或ハ二人以上ノ行爲ヲ云フコトアリ然レトモ之ヲ種々ノ意味ニ使用スルニ於テハ其不便ヲ感スルヲ以テ普通ノ意義ヲ以テ之カ定義ヲ下サンニ取引トハ我々カ法律上權利義務ヲ創生シ或ハ移轉シ又ハ消滅セシムルノ目的ヲ以テ法律ニ違背セサル手續ニ依ル處ノ行爲又ハ行爲ノ集合体ヲ云フ尙ホ之ヲ前述ノ法爲ナルモノニ照シテ見ルトキハ明カナリ例ヲ以テ示セ

ハ遺囑證書契約賣買讓與負債仕拂ノ提供代理ノ委任官吏ノ任免ノ如キ是ナリ又養子或ハ婚姻ノ如キモ取引ノ内ニ含マル、モノナリ又契

第一要素

對手人

約賣買ノ如キハ二人以上ノ働キヲ要スル法爲ナリ然レトモ遺囑讓與ノ如キハ一人ノ行爲ヲ以テ完全ナラシムルモノナリ此取引ニハ嘗テ總論ニ於テ述ヘシ處ノ要素、通素、偶素ノ三者ヲ有スルコトハ素ヨリ論ヲ待タスシテ明カナリ以下之ヲ述ヘン

第一要素

對手人

取引ニハ對手人ナカル可カラス而シテ對手人ハ法律上定メタル處ノ能力ヲ有スルモノナラサルヘカラス勿論法律上何人ニテモ對手人タルノ能力ヲ有スルモノタルコトヲ推測シ何人モ法爲ヲ爲スノ能力ナ與ヘラレタルモノナリ然レトモ既ニ述ヘシ如ク幼年者、有夫ノ婦、瘋癲人、水夫、官吏ノ如キハ例外ナリトス

何人ニテモ對手人ト爲リ得ルニハ差支ナク又對手人ハ其數ニ於テハ

Unilateral  
Bilateral or politateral.

制限ナシト雖モ其數人ハ一團結トシテ一方ノ對手タルヲ要ス會社ノ如キ幾百人ノ社員アルモ其團結アリタルニ於テハ毫モ差支ナシ故ニ對手人トハ一人又ハ集合體一個ノ團結トシテ行爲アルコトヲ取引ノ要素トシテ確認セラル、ヲ必要ナリトス即チ甲會社ト乙ト取引スル場合ニ於テハ甲會社ハ團結ノ一個體ニ非ラサレハ賣買ノ對手人タル能ハサルナリ  
取引ニハ權利義務ヲ生スル意志ナカルヘカラス而シテ此意志タル外面ニ表顯セサルヘカラス又取引ヲ有効ナラシムルニハ一人ノ意志ヲ要スルアリ二個以上ノ意志ノ一致ヲ必要トスルアリ故ニ古ヨリ取引ヲ分テ二トナス甲ノ取引ヲ單面取引ト云ヒ乙ノ取引ヲ復面取引ト云フ之レヲ以テ佛蘭西民法契約篇ニアル偏務ト雙務契約ノ二ツノモノト混淆ス可カラス單面ノ取引トハ對手一方ノ意志アレハ効アリ復面

取引トハ二個以上ノ意志ノ一致セサレハ有効ナラサルモノヲ云フ例  
セハ負債ヲ拂フニハ負債者ノミニテ足レリト雖モ賣買ノ如キハ賣主  
ト買主トノ意志ノ一致ナカルヘカラス然レトモ玆ニ注意スヘキハ單  
面取引ト雖トモ反對ノ位置ニアル對手ノ承諾ヲ待テ始メテ効ヲ生ス  
ルモノアリ語ヲ換ヘテ之ヲ云ハ一方ノ者ノ承諾ヲ待テ始メテ其効  
ヲ生スルモノアリ例ヘハ贈與ノ如キハ甲者カ乙者ニ或ル物品ヲ贈與  
スルノ意志ヲ表顯スレハ足レリト雖モ受贈者タル乙者ノ其贈與ヲ肯  
セサルニ於テハ之ヲ強行スル能ハス故ニ是等ハ乙者即チ受贈者ノ承  
諾ヲ待テ始メテ有効ナリトス又遺囑ノ如キモ受遺囑者ノ承諾ヲ待テ  
始メテ効ヲ生スルモノナリ例セハ甲ハ乙ニ家屋ヲ與ヘント欲シ遺囑  
書ヲ作リタリ是レ單面ノ取引ニシテ有効ナリト雖モ其後一方ハ謂ハ  
レナク之ヲ受クルノ理ナシトテ受取ラサルトキハ其効力ハ生セサル

具ヲ云フモノニシテ妻ノ別有財産トハ混同スヘカラス英國ノ習慣法ニ依レハ妻ノ裝具ハ婚姻繼續中夫ノ所有品ニシテ夫ニ於テ十分ノ處分權ヲ有スルモノナリ而シテ夫ノ死亡スル時ニハ妻ノ完全所有權ニ屬スヘシ然レトモ妻ノ別有財産ハ斯クノ如ク夫ハ處分スルヲ得サルナリ妻ノ裝具ト否トヲ區別スルハ稍漠然タル原則ニ據ラサルヘカラス然レトモ通常婦女子カ其身分相當ノ衣服頭飾其他手道具ヲ含蓄スルモノニシテ櫛笄時計鏡臺針筐ノ類ハ共ニ此種類ニ入ルモノナリ然レトモ彼ノ傳家ノ重寶ハ此類ニ入ラス傳家ノ重寶トハ日本ノ華族杯ノ家ニ先祖ヨリ傳ハル所ノ千鳥ノ烘爐正宗ノ刀ノ如キ又ハ歐州ニテ云ヘハ元祖傳來ノ寶石ノ如キハ家ノ重器トシテ日本ニテ云ヘハ世襲財産ニ入ルヘキモノナレハ夫ノ生存中妻ニ於テ之ヲ他ノ櫛笄其外ノ粧飾

品ト同様ニ使用シタリト雖モ妻ノ装具トハ見ルヘカラス  
 装具ヲ所有スルノ權ハ妻ノ一身上ニ限ルモノナレハ妻ノ死亡シタル  
 場合ニ其遺産管財人ハ之ヲ要求スルノ權ナシ「夫生存中ハ装具ハ妻ノ  
 所有物ニアラス即チ女ハ己ヲ知ルモノ、爲メニ容ツクルト云フカ如  
 ク自分ノ使用スル装具ハ夫ノ爲メニ使用スルモノニシテ決シテ妻ノ  
 所有物ニアラサレハ夫ノ負債ニ對シテ債主ヨリ差押ラル、コトアル  
 ヘシ又夫死亡ノ後其財産負債ヲ償フニ足ラサルトキハ妻ノ装具ハ當  
 然負債ノ仕拂ニ充ツヘキモノトス然レトモ此場合ニ於テハ尙ホ身代  
 限ニ於ケルト畧ホ同一ノ理由ニ基キ妻ニ必要ナル衣服手道具ハ取除  
 ケラルヘシ

若シ夫妻ノ装具ヲ抵當トナシ借財ヲ爲シタル場合ニハ夫死亡セハ寡  
 婦ニ於テ請戻ノ權アルヘシ而シテ夫ニ於テ他ニ十分遺産ヲ存シタル

場合ハ負債ノ償却ハ遺産ヨリ仕拂フヘキモノニシテ妻ハ抵當ノ義務ヲ免レタル上ニテ装具ヲ所得スルヲ得ヘシ  
元來英吉利法律ニ依レハ夫死亡シタル後ニ其負債ヲ償却スルノ順序ハ第一、動産ヨリ之ヲ仕拂ヒ動産不足ナルトキハ不動産ヲ以テ之ニ當テ而ル後装具ニ及フヘキモノナレハ若シ十分ノ動産又ハ不動産アルニモ拘ハラス装具ヲ以テ負債ヲ償却シタルトキハ妻ハ其辨償ヲ遺産中ヨリ請求スルヲ得ヘシ若シ有夫ノ婦女其夫ノ死亡セルコトヲ知ラスシテ家内ノ必要品ヲ買入レタル場合ハ右必要品ニ對スル代價仕拂ノ義務ハ何人ノ責任ナルヤヲ考察スルニ代理法ノ原則ヲ適用スルヲ必要トス代理法ノ原則ニ據レハ本人死亡シタルトキハ代理人ハ當然其代理權ヲ失フ者ニシテ代理者ニ於テ本人ノ死亡シタルコトヲ知ルト知ラサルトニ拘ハラサルナリ故ニ夫死亡シタル場合ニハ妻ノ代理

權モ消滅スル筈ナリ而シテ又夫ノ遺産ニ對シテ責任ヲ負ハシムル能ハサルモノトス然レトモ右ノ原則ハ妻ト取引ヲ爲ス商業者ニ對シテハ極メテ不公半ナル結果ヲ生スルカ故ニ今日ハ英國代理法ノ原則ニ依ラスシテ羅馬法ノ原則ニ依リ妻カ夫ノ死亡シタルニ拘ハラス其事柄ヲ未タ知ラスシテ必要品ノ取引ヲ爲シタルトキハ夫ノ遺産ニ對シテ責任ヲ負擔セシムルヲ至當トスル傾向アリトス詳細ハ拙著ノ代理法ニ出タセリ

### 第九編 妻ノ不動産三分一權ヲ論ス

妻ノ不動産三分一權トハ法律カ夫ノ不動産中ヨリ特ニ其幾部分ヲ寡婦ノ手當トシテ與フルモノナリ而シテ該權利タルヤ寡婦ニ於テ他ノ財産ヲ以テ自活スルノ途アルト否トニ拘ハラス之ヲ與フルモノニシテ其權利ハ生涯間ニ限ルモノトス而シテ習慣法ニ依レハ婚姻繼續中

ニ夫カ有シタル相續産ハ總テ寡婦ノ不動産三分一權ヲ負擔スヘキモ  
ノトス寡婦ノ三分一權ヲ英語ニテ「ダワア」ト云フ而シテ其習慣ハ極メ  
テ古代ヨリ成立セシモノトス習慣法ニ於テハ寡婦ノ權利ハ夫ノ相續  
産ノ三分一ヲ得ルモノトス故ニ寡婦ノ不動産三分一權ト名ツク然  
レトモ或地方ニ於テハ二分ノ一ヲ與ヘタルモノナキニアラス寡婦ノ  
不動産三分一權ハ有形財産無形財産ヲ問ハス都テノ土地及其他ノ相  
續産ニ及ブモノトス

此寡婦ノ不動産三分一權ト前ノ動産三分一權トハ混同スヘカラス蓋  
シ英吉利習慣法ノ精神ハ不動産ヲ商買品ト見做サスシテ成ルヘク其  
家ニ保存セシムルノ主意ナルヲ以テ夫婦ノ間ニ子女アルトキハ之カ  
相續ニ歸スト雖モ若シ之ナキトキニハ夫ノ不動産ハ成ルヘク夫ノ家  
ニ保存セシメ妻ノ不動産ハ成ルヘク妻ノ家ニ保存セシムルノ精神ナ

レハ夫ノ死亡シタルトキニテモ其不動産ニ對シテモ妻ノ有スル三分一權ハ生涯間ニ止リ妻死亡スルトキニハ夫ノ親戚ノ所得ニ歸スルモノナリ日本ノ習慣ハ未タ分明ナラサレトモ女カ他家ニ嫁スルトキハ直チニ自分ノ姓ヲ失フモノ、如シ支那ニテハ女カ他家ニ嫁スルヲ歸ツクト云ヒ夫ノ家ニ歸ルト云ヘトモ妻ノ本家ノ姓ヲ失ハスシテ依然何々氏ヲ以テ稱セラル日本ノ學者ハ此差違アルヲ知ラスシテ支那流ニ碑文ナトニ配何々氏ト記ス蓋シ誤謬ナルナカラシヤ英吉利ニテモ夫死亡後ハ自分ノ好ニ任セ生家ノ姓ヲ稱スルコトヲ得ルハ自由ナリ而シテ前ニ述フル如ク不動産ニ至リテハ必ス夫妻ノ部分ヲ區別スルナリ

寡婦ノ不動産三分一權ニ必要ナル要件ハ左ノ如シ

第一、正當ノ婚姻

第二、夫ニ於テ財産ヲ握有シタルコト

第三、夫ノ死

亡シタルコト、ス而シテ此場合ニ於テハ夫妻ノ間ニ子孫アラサルモ妻ハ猶三分一權ヲ得ルモノトス以上三要素ノ中正當ノ婚姻及夫ノ死亡ハ今更ニ之ヲ説明スルニ及ハス而シテ第二ノ要素即チ夫ニ於テ財産ヲ握有スルコトハ如何ナルコトヲ指示スルヤヲ探究スルニ總テ家屋地所其他ノ相續産ニ付キ夫ニ於テ現ニ權利ヲ有シタルトキチ云フモノニシテ家屋地所ニ未來ニ有スヘキ權利ニアラサルナリ妻ノ不動産三分一權ハ種々ノ方法ニ依リテ消滅ス第一妻ニ於テ姦通若シクハ甚シキ不行跡アリタル時第二夫妻離別シタル時米國ニ於テハ妻ノ不動産三分一權ヲ消滅セシムルニ種々ノ原因アリテ以上ノ外ニ歲月ノ經過裁判上ノ賣買及政府ノ沒收トス

夫死亡シタルトキハ妻ノ不動産三分一權ハ其完全ノ所得ニ歸スヘシ然レトモ其死亡セサル前ノ權利ハ唯他日ニ於テ之ヲ得ヘキノ權ニシテ其土地ニ對シテハ習慣法上始終附屬スル者トス故ニ夫ニ於テ妻ノ不動産三分一權ヲ土地ニ附着セシムルコトナク之ヲ他人ニ讓渡サントスルニハ特別ノ手續ヲ要シタルモノナリ然レトモウキリアム第四世ノ條例ニ依リ夫ニ其生存中又ハ遺囑ノ處分ニ依リテ妻ノ權利ヲ付着セシムルコトナク之ヲ賣買又ハ其他處分ヲ爲スコトヲ許セリ米國ニ於テハ寡婦ノ權利ヲ重スルノ傾向アリト雖モ不動産三分一權ハ實ニ今日ノ社會ニ於テ地所チ一ノ商賣品ト見做ストキハ其流通ヲ妨グルコト甚シキモノナリ猶ホ日本ニ於テ華族ニ世襲財産ヲ設ケタルト一般ニシテ一時政畧上止ムヲ得サルトキハ先ツ可ナリト雖モ到底斯クノ如キ法律ハ永遠ニ維持スルヲ得サル者ナリ故ニ此ノ寡婦ノ不動

產三分一權モ之ヲ廢棄スルノ傾向ナキニアラスハ、  
ニユーヨーク州ニ於テハ夫死亡ノ際ニ其握有ニ係ル不動産ノミニ關  
シテ妻ハ其三分一ヲ有スルモノトセラレタリ而シテイムデイア州  
ニ於テハ凡テ妻ノ三分一權ヲ廢シ之ニ代ユルニ動産處分ノ法ヲ以テ  
不動産ニモ適用スルコト、セリ是レ最モ至當ノ法ト信ス今日ノ如ク  
妻ニ別有財産ヲ有スルコトヲ許スニ至レハ前ノ三分一權モ無用ニ歸  
シ總テ夫妻婚姻ノ際ニ代言人ヲ依頼シテ婚姻ノ財産契約ヲ結ハハ足  
レリ以下妻ノ別有財産ニ付キ法則如何ヲ論スヘシ

**第十編 妻ノ別有財産ヲ論ス**〔英國法〕

妻ハ習慣法ニ於テ夫ノ身分ニ合併セラレ獨立ニ財産ヲ所有スル能ハ  
サル所以ト並ニ其他ノ不能力ニ關シテハ前ニ述ヘタリ然レトモ漸次  
文化ノ發達スルニ從ヒ妻ト雖モ獨立ノ地位ヲ保有シ且ツ財産ヲ所有

シ得ルニ至レルモノニシテ今本篇ニ於テ其沿革ノ要旨ヲ講述セン  
 妻タルモノカ別有財産ヲ所有シ得ルニ至リタル所以ハ衡平法庭ノ功  
 ニシテ立法ヨリ生シタルニアラス今ヲ距ルコト百年前ヨリシテ衡平  
 法庭ノ傾向ハ成ルヘク妻ニ獨立ノ權ヲ有セシムルニ在リ而シテ其傾  
 向漸々ニ發達シ今日ニ至リテハ妻ニ於テ別有財産ヲ所有スル限リハ  
 總テ通常ノ婦女ト同シク自由ノ權ヲ得ルニ至レリ故ニ妻ノ別有財産  
 ハ信托財産ニシテ衡平法庭ノ管轄スル所ナリ諸君ハ未タ信托財産ノ  
 何物タルヲ知ラレサルモアレハ左ニ一言スヘシ  
 元來英國法ノ考ニテハ財産權ニ二種アリテ一ハ衡平法上ノ所有權ニ  
 ハ習慣法上ノ所有權是レナリ例ヘハ甲ナルモノ一ノ財産ヲ乙ニ讓渡  
 シ丙ノ爲メニ使用セシムルトキハ該財産ニ對シテ乙ハ習慣法上ノ所  
 有權ヲ有シ丙ハ衡平法上ノ所有權ヲ有ス則チ乙ハ必ス該財産ニ對シ

テハ丙ノ利益ヲ計リテ使用セサルヘカラサルナリ尙ホ領解シ易キ例  
ヲ取レハ日本ノ土地ハ外國人ヲシテ所有セシムルコトヲ禁スルカユ  
ヘニ外國人ハ日本人ノ名義ヲ以テ土地ヲ買入レ實益ヲ收納スルハ往  
々見ル所ナリ此場合ニ於テ名義ノミノ所有者即チ日本人ハ習慣法上  
ノ財産權ヲ有シ外國人ハ衡平法上ノ所有權ヲ有スルモノナリ〔編者曰  
ク先生ノ本例ハ唯英國ニテ云フ習慣法上衡平法上ノ財産權ノ形狀ヲ  
説明スル爲メ援引シタルモノニシテ現ニ本邦ニ於テ該外國人ノ衡平  
法上ノ所有權ヲ認ムルニアラス一言以テ注意シ置ク〕却說此二様ノ財  
産權ヲ組成スルニハ甲乙丙ト三人ヲ要シタレトモ漸次便宜ヲ計リ前  
例ニテ云ヘハ甲ハ直ニ丙ノ爲メニ財産ヲ托セラレタルモノト認メ敢  
テ乙ノ仲介ヲ要セサルニ至レリ今之ニ關スル來歴及起原等ヲ説明ス  
ルハ最モ容易ノコトナレトモ自ラ區域外ニ涉ルヲ以テ之ヲ述ヘス

斯クノ如キ理由ヨリシテ妻ハ夫ニ對シ衡平法上ノ所有權ヲ有スルモ  
 ノニシテ夫ハ妻ノ爲メニツラスチトシテ義務ヲ有スルモノナリ而  
 シテ別有財産ヲ生スル所ノ證書ハ受托人ヲ指示スルニ及ハサルモノ  
 トス而シテ若シ受托者ノ指示ナキトキハ夫ヲ以テ受托者ト爲スヘシ  
 信托財産ノ當然ノ性質トシテ何人ノ手ニ移轉スルコトアルモ或例外  
 ノ場合ノ外ハ總テ信托ノ性質ヲ帶フルモノトス例ニハ甲者乙ナル婦  
 女ノ爲メニ托サレタル所ノ信托財産ヲ其夫ナル丙者ニ引渡シタルト  
 キハ丙者ハ信托ノ義務ヲ盡サルヘカラス  
 妻タルモノ婚姻ノ際ニ所有セル所ノ財産ハ習慣法ノ原則ニ依リ總テ  
 夫ノ所有ニ歸スルモノナリ故ニ信托財産ヲ組織セントスルニハ其意  
 思ヲ明瞭ニセサルヘカラス即チ或財産ヲシテ妻ノ別有財産タラシメ  
 ントスルニハ別段ニ確定シタル式ナシト雖モ之ヲシテ別有財産タラ

シメントスルノ意思明瞭ナルヲ要ス否ヲサレハ習慣法ニ依リ妻ノ財  
産ハ總テ夫ノ有ニ歸スヘシ然レトモ財産ヨリ生スル所ノ所得ヲ期限  
ヲ定メス永世妻ノ別有財産トシテ與ヘタルトキハ之カ元タル所ノ財  
産ヲ別有財産トナシタルト同一ノ者ト看做スヘシ  
又別有財産ヨリ生スル所ノ利益ハ總テ別有財産タルヘシ別有財産ハ  
妻ノ死亾ト共ニ消滅スヘシ故ニ妻死亾シタルトキハ妻ノ別有財産ハ  
總テ夫ノ有ニ歸スルモノトス例エハ妻ノ別有財産ト定メタル占有産  
ハ妻ノ死後夫ノ所有ニ屬ス而シテ其訴訟産ハ夫ニ於テ妻ノ遺産管理  
人タルノ資格ヲ以テ之ヲ握有スルヲ得ヘシ  
以上ニ述ヘタル如ク別有財産ハ妻ノ死亾ニ依リ夫ノ所得ニ歸スヘキ  
モノナレトモ妻ノ生存中ハ之ヲ處分スルヲ得ヘシ又妻ハ遺囑ノ證書  
ヲ以テ之カ處分ヲ指揮スルコトヲ得ヘシ又別有財産ヲ生シタル當時

ニ於テ其證書面中ニ妻死ハスルノ後夫ノ別有財産ニ對シテ有スル所ノ權利ヲ剝奪シ又ハ之ヲ減縮制限スルヲ得ヘシ

婦女其婚姻スルニ當リ別有財産ノ權利ヲ放棄スルコトヲ得ヘシ即チ婦女カ未タ婚姻セサル前ニ其親戚ヨリ別有財産トシテ與ヘタルモノヲ婚姻ノ時ニ際シ其權利ヲ放棄シ夫ノ所有ニ歸セシムルヲ得ヘシ然レトモ此場合ニ於テハ放棄ノ所爲極メテ明瞭ナラサルヘカラス且ツ衡平法廷ハ婦女ニ錯誤強迫又ハ其他不當ナル原因ヨリ其權利ヲ放棄シタルニアラサルヤヲ探究スヘキナリ

米國ニ於テ婦女ニ別有財産ノ權利ヲ與エタルヨリシテ夫婦間ノ權利義務ニ如何ナル變更ヲ生シタルヤト云フニ外面ニ於テハ何タル變更モ無キモノト知ラル即チ妻ハ別有財産アリト雖モ夫ニ資給スルノ義務ナク又ハ其別有財産ヲ家族ノ入費ニ使用スヘキ義務アルニアラス

然レトモ實際内部ニ立入りテ觀ルトキハ大ニ變更セシハ勿論ナリ例  
ヘハ別有財産アルカ爲メニ妻ハ之ニ關シテ契約ヲ結ビテ金錢ノ取引  
ヲ爲スヲ得ルナリ又近代ノ條例ニ依レハ妻ノ別有財産ハ妻カ婚姻前  
ニ引請ケタル負債ノ償却ニ充ツヘキモノトセラレタリ  
妻ハ其別有財産ヲ以テ其子女ヲ養育スルノ義務ナシ又妻不行跡アリ  
テ夫ノ家ヲ去ル時ト雖モ妻ノ別有財産ヲ差押エ子女養育ノ入費ニ充  
ツルヲ得サルモノトス  
妻ノ別有財産ハ若シ之ヲ他ニ移轉ノ讓渡ヲ爲スニ當リ妻ノ承諾ヲ要  
セス又ハ其別有財産タルコトヲ知ラシメスシテ夫タルモノ之ヲ第三  
者ニ讓渡シタルトキハ該財産ハ信托財産タル性質ヲ失フヘシ  
妻ニ別有財産ヲ與フルニハ之ニ完全ノ所有權ヲ與フルコトアリ又ハ  
其處分權ヲ制限シテ與フルコトアリ例エハ甲者ナルモノ其親戚ノ乙

者ノ婚姻ニ際シテ婚姻ノ繼續中ハ之ヲ賣買質入スルノ權ヲ剝奪シテ別有財産ヲ與フルコトヲ得ヘシ元來別有財産ハ妻ノ安全ノ爲メニ設ケタルモノニシテ平常ハ之ヲ使用スルモノニアラス左レハ夫ノ生計ヲ助ケ又ハ養兒ノ費ニモ供セサルナリ通常該財産ニ設定スルモノハ公債證書株券等トス然リ而シテ此制度タルヤ英米ニハ實ニ必用欠クヘカラサルモノナレトモ本邦ニハ未タ其必用ヲ見ス其理由ハ一國經濟ノ狀況ニ因ルモノナリ英米ノ如キハ本邦ト異ナリ家ニ祖先傳來ノ營業ナクシテ貧富ノ變轉甚シク昨日マテ肥馬輕裘ニ驕奢ヲ極メタルノ今日ハ鶉衣襤袍ヲ纏フテ憐ヲ路頭ニ乞フノ慘狀ヲ呈スルコト間々多シトス斯ヽル地ニ生活スルモノハ能ク後來ヲ慮ハカリテ天ノ未タ陰雨セサルニ牖戸ヲ綢繆セスンハアルヘカラス即チ他人ノ妻タルモノハ老衰セサル前ニ相當ノ財産ヲ貯蓄シテ生活ノ苦ヲ免ルヽコト肝

要ナリトス殊ニ英米國ノ如キハ晚婚ノ風俗行ハルヲ以テ其子供ヲ設クルヤ甚タ晚ク從テ子供ノ生長シテ獨立ノ生計ヲ營ムニ至ルハ父母老衰ノ後ニ在リ之ヲ本邦ノ早婚シテ年未タ初老ニ及ハサルニ早ヤ隱居シテ頤然子供ノ厄介ニ掛ルニ比セハ其懸隔果シテ如何ノヤ雖然本邦モ又漸次英米ノ制度ニ傾歩スル實アルヲ以テ日ナラスシテ別有財産ヲ設定スルノ必要ヲ見ルニ至ラシ

**第十一編 妻ノ別有財産ヲ論ス 一 米國法**

英國ニ於テハ前ニ述ヘタル如ク衡平法廷ノ裁判ヨリ生シタルモノナレトモ亞米利加殖民地カ本國ナル英國ノ羈輓ヲ脱シテ獨立國トナル時代ニ在リテハ未タ別有財産ノ法理充分發達セサル時ナレハ習慣法トシテ之ヲ傳來シタルモノ甚タ稀レナルヲ以テ米國ニテハ重ニ立法ヨリ生シタルモノトス

親族法

米國ニ於テ未タ別有財産ニ關係スル條例アラサリシ前ニハ其習慣上ノ發達ハ極メテ不完全ニシテ英國ノ衡平法ノ幾分ヲ少シク折衷潤飾シタル儘之ヲ採用シタルモトス然レトモ近代ニ至リ聯邦各州ニ於テ別有財産ニ關係アル條例ヲ頻リニ發布シタリ今其概畧ヲ述ヘンニ一千八百二十一年ノイン州ノ立法部ニ於テ夫ニ捨テラレタル妻ニ獨立ノ成立ヲ許シ訴訟ヲ起シ契約ヲ結ヒ不動産ヲ讓渡スノ權ヲ與エタルヲ以テ嚆矢トス爾來各州ニ於テ幾多ノ條例アリト雖モ其最モ重大ナルモノヲ一千八百四十八年ニ於テ發布セラレタルニユーヨーク州ノ條例トス其條例ノ大畧ハ凡テノ結婚婦ヲシテ恰モ獨立ノ婦女ノ如ク動産不動産ヲ別有財産ト爲シ之カ利益ヲ所得シ而シテ該財産ヲ夫ノ處分權外ニ置キ夫ノ債主ノ權利ヲ之ニ對シテ行フヲ得サラシムルニアリ而シテ結婚婦ハ其夫ノ外ハ總テ何人ヨリモ讓與讓受又ハ其他財

產ヲ得ルノ手續キテ以テ別有財産ヲ得セシメタリ  
右ニユトヨルク州ノ條例ニ續テ出テタルモノヲペンシルベニヤ條例  
トス此條例ハニユトヨルク州ノ條例ニ後レタルコト僅ニ四日ナリ而  
シテニユトヨルク州ノ條例ヨリモ猶ホ一層妻ニ獨立ノ精神ヲ含蓄セ  
シメタリ即其大畧ハ妻ノ別有財産ヲ以テ法律上ノ所有權ト爲シタル  
ノミナラス該財産ヲ遺囑ノ證書ヲ以テ處分スルヲ許シ而シテ夫ノ資  
力不充分ナルトキハ家族ノ資給ニ供スルノ義務ヲ負ハシ而シテ妻死  
亡スルトキニハ夫並ニ其子女ニ相續セシムルコト、セリ又夫ヲシテ  
總テ妻ノ婚姻前ノ負債ニ對シテ責任ヲ免レシメタリ及ヒ妻ノ別有財  
産ハ妻ノ契約及ヒ私犯ニ對シテ責任ヲ負フヘキモノトセリ  
妻ノ別有財産ハ之ヲシテ夫ノ財産ト區別セシメサルヘカラス故ニ不  
動産公債證書ノ如キモノハ區別シ易シト雖モ其他ノ輾轉スル財産ハ

甚タ困難トス蓋シ之ヲ區別スルノ要ハ詐偽ヲ防クニアリ若シ夫ノ財產ト區別セサルニ於テハ總テ別有財產タル資格ヲ失フヘシ上來陳述シタル如ク衡半法並ニ條例ニ據リテ習慣法ヲ變更シタル概畧ヲ説明スレハ實ニ非常ノ變革ニシテ之ヲ要スルニ有夫ノ婦女ニ於テ別有財產ヲ所有セサルトキハ其財產ノアラン限リ獨立ヲ與エタル者ニシテ而シテ其獨立ノ全キト或ハ不充分ナルトノ差異ハ英米諸國間ニ免レサル所ナリ例ヘハ或條例ニ於テ夫資力ナキトキニハ其妻ニ必要品ノ仕拂ノ義務ヲ負ハシメタルカ如キハ即チ妻ノ獨立ヲ認めタルト同時ニ家内ノ費用ハ或場合ニ於テ夫妻共ニ負擔セサルヘカヲサルノ理ヲ示シタルモノナリ又或州ニ於テハ妻ノ結婚前ノ負債ニ對シテ夫ノ負ヘル責任ヲ制限シタリ即チ夫ハ妻ニ依リテ得タル財產ノ高以外ニ負擔ノ義務ナキモノトシ又ハ甚シキニ至リテハ全ク其義務ヲ

免シ妻生存スルトキニハ其別有財産ヲ以テ之カ仕拂ニ充テタリ又妻ノ不行跡ニ對シテ夫ハ責任ヲ免レ其損害ノ辦償ハ妻ノ別有財産ヨリ仕拂ハシムルコト、或條例ニ依リテ定メラレタリ又近代ノ立法ノ傾向ハ妻ノ受ケタル損害ニ對シテ辦償ヲ得タルトキハ其辦償金ハ妻ノ所得トナスニ在リ

## 第十二編 別有財産ニ對スル妻ノ所有權ヲ論ス

別有財産ヲ所有スルノ權利ハ之ニ附帶シテ處分權ノ隨屬スルモノトス故ニ法律ニ於テ別有財産ノ所有ヲ許シタルト同時ニ處分權ヲ許シタルモノナリ今之ヲ英國及米國ノ二項ニ區別シテ説明スヘシ第一英國ノ制度英國ノ制度ニ於テハ妻タルモノ或動産ヲ自己ノ別有物トセラレタルトキハ即チ同時ニ之ヲ處分スルノ權ヲ有シテ結婚セサル獨立ノ婦女ト更ニ異ナル處ナシ尤モ妻カ別有財産ヲ得タル證

書ヲ以テ其處分ノ權力ヲ制限シタル場合ハ此限ニアラス而シテ處分  
權ノ制限ナキトキニハ通常ノ證書又ハ遺囑ノ證書ヲ以テ其好ミニ任  
セ處分スルヲ得ヘシ  
以上ニ述ヘタル婦女ノ處分權ハ別有財産ヨリ生スル處ノ所得收益ニ  
限ラス其別有財産ソレ自ラヲ處分スルヲ得ヘシ  
婦女ノ別有財産不動産ナルトキニハ其處分權ハ不動産讓渡ニ附帶ス  
ル特別ノ規則ニ從フヘキモノトス  
有夫婦女ハ其別有財産ニ對シテ恰モ獨立ノ婦女ト同様ニ契約權アル  
ヘシ尤モ此契約權利ハ近代起リタルモノニシテ從前ハ別有財産ヲ所  
有スル有夫婦女ト雖モ契約ノ權ナカリシナリ而シテ有夫婦女カ契約  
ノ權利ヲ得タル來歴ヲ繹ヌルニ最初ハ唯或方式ニ從ヒ書面ヲ以テ契  
約スルヲ得ルノミナリシカ稍後世ニ至リテ何等ノ書面ヲ以テスルモ

之ヲ爲スコトヲ許スニ至レリ而シテ最後ニハ書面契約ノミナラス總  
テノ契約ニ依リテ義務ヲ負フコト、ナレリ  
婦女カ契約ニ依リテ義務ヲ負フ所ノ訴訟手續上ノ理論ハ婦女ニ其  
身上ニ義務ヲ負ハシムルニアラスシテ其別有財産ニ義務ヲ負ハシム  
ルモノトセリ故ニ或判事ノ明言シタル如ク婦女ニ對スル裁判言渡ハ  
宜シク其財産ニ對シテ之ヲ爲スヘシト而シテ若シ財産ノ受托者アル  
場合ニハ訴訟ハ受托者ニ對シテ之ヲ起スヘキモノニシテ婦女ニ係リ  
訴フヘキモノニアラスト  
以上ニ述ヘタル婦女ノ一身上ノ權力ハ極メテ制限セラレタルモノニ  
シテ唯別有財産アルカ爲ノニ義務ヲ負フモノナレトモ近代ニ至リ一  
身上ニ義務ヲ引受クルコト能フヤ又能ハサルヤノ疑問生シタリスチ  
ト對子ルソノ訴訟ニ於テ夫婦連帶ニ妻ノ別有財産ヲ質入シタリ

後夫死亡シタルヨリ訴訟トナリタルニ判事ラシクデール(契約書ヲ著  
 シタル有名ノ學士ナリ)氏ハ生存セル妻ニ一身上ノ義務アルモノトナ  
 シ契約ノ履行ヲ命シタリ要之英國ニ在リテ近代ノ傾向ハ妻ニ一身上  
 ノ責任ヲ負ハシムルニ在リト云フハ其ノ理ハ明カニシテモ、  
 有夫ノ婦女ハ其別有財産ヲ生シタル信託ノ文言ニ依リテ制限セラレ  
 サル時ハ其處分權ニ依リ夫ニ之ヲ讓與スルコトヲ得ヘシ(尤モ英國ノ  
 習慣法ニ於テ夫妻ノ間讓與ヲナス能ハサルコトハ前ニ述ヘタリ)獨リ  
 讓與ヲ爲シ得ルノミナラス相當ノ報酬ヲ得テ讓渡ヲ爲スヲ得ヘシ然  
 レトモ此等ノ所爲ハ極メテ法律ノ注意ヲ要スルモノニシテ其目的債  
 主ノ權利ヲ妨害スル所ノ不正ノ心底ニ原因シタルトキハ其取引ヲ無  
 効ニスルモノナリ

第二米國ノ制度 米國ノ制度ニ據ルモ妻ノ權利ハ英國ノ制度ト大同

小異ナリ唯英國ニ在リテハ各州其制度ヲ異ニセルヲ以テ錯雜ヲ免レ  
難キモ其大要ハ左ノ如シ  
米國ニ於テハ條例ノ明文ニ拘ハラヌ妻ノ別有財産ヲ許可シタルトキ  
ハ從テ之ニ處分權ヲ與ヘタルモノトス即チ或有名ナル訴訟ニ於テ判  
決セラレタル所ニ依レハ別有財産ヲ所有スル有夫ノ婦女ハ衡平法上  
獨立ノ婦女ト見做スヘキモノニシテ信託財産受托者ノ承諾ヲ待タス  
之ヲ處分スルヲ得ルモノトセラレタリ尤別有財産ヲ成立セシムル所  
ノ證書ヲ以テ處分權利ヲ制限シタル場合ハ此限ニアラス  
妻ハ其夫ノ負債ノ爲メニ自己ノ別有財産ヲ束縛スルコトヲ得ヘシ而  
シテ別有財産及ヒ其使用及収益ヲ讓與スルヲ得ヘシ又夫妻連帶ニ其  
夫ノ負債ノ抵當トシテ妻ノ別有財産ヲ質入シタリシトキハ妻ハ負債  
ノ保證人ト見做サル、コトハ已ニ述ヘタリ又夫ハ妻ノ債主ト爲リ妻

ノ別有財産ヲ抵當ニ取ルコトヲ得ヘシ妻契約ヲ爲シ其別有財産ヲ束縛スルニハ唯其意志ヲ明ラカナラシムルトキニハ十分ニシテ別段ニ定メタル式ヲ要スルニアラス而シテ婚姻繼續中ニ契約ヲ取結ヒタルトキハ別有財産ヲ束縛スルモノナリト法律ハ推測ヲ爲スヘシ然レトモ婚姻前ニ取結ヒタル負債ニ對シテ婚姻繼續中ハ別有財産ニ對シテ之ヲ請求スルノ權利ヲ停止セラルヘシ

妻ハ其夫ヲ以テ別有財産ノ受托者ト看做スヘキ權アルヲ以テ婦女ハ別有財産條例ニ依リテ妻及ヒ夫ノ債主間ニ爭テ生スルコト少カラス何トナレハ婚姻繼續中妻其別有財産ヲ夫ニ讓與スルニハ別段ニ正式テ要セスシテ唯夫ニ讓與ヲナシタルモノト見做ス場合少ナカラサルヲ以テ夫ニ於テ妻ノ財産ヲ處分スルニ當リ債主ヨリ之ヲ見ルトキ妻ノ受托者トシテ右等ノ處分ヲ爲スモノナリヤ又ハ妻ヨリ其別有財産

渡シタリ是レ全ク前例ニ述ヘタルト同一ノ理由ニシテ實際損害ノ有  
無ヲ問ハス榮譽權ノ重キ所以ヲ知ラシムルモノト知ルヘシ榮譽權ヲ  
犯サレタル場合ノ如キハ損害ノ實額ヲ得ルコト到底デキ得ヘキコト  
ニアラサルノミナラス其重大ノ權利ヲ犯サレタルモノナルコトハ誰  
レ人カ考ヘテモ明カナルコトニテアレハ陪審官ノ評決位ニ任スルハ  
至極尤モノ次第ト謂フヘシ  
已上ハ只一二ノ例ニ止マルコトナルカ或ハ他人ノ冠リ居ル帽子ヲ打  
チ落シ耻辱ヲ與ヘタリトカ又他人ノ面ニ唾シテ耻辱ヲ蒙ラシメタリ  
トカ或ハ他人ヲ歐打シタリトカ云ヘル例ニ至テハ何レモ損害ノ實額  
ヲ計算スルニ難キハ一々説明セストモ明カナリ殊ニ身体若クハ榮譽  
ノ如キハ通常ノ財産類トハ異ナリテ一タヒ之レヲ失ヘハ終ニ回復ス  
ヘカラサルカ又ハ回復スルニ難キ性質ノモノナレハ此等ノ權利ハ法

律ニ於テモ特別ノ保護ヲ與フルコト素ヨリ當然ニシテ右ニ違ヘタル  
 實例ニ於ケル判決ノ如キ蓋シ身體權榮譽權ノ重キヲ知ラシムルニ足  
 ルモノト謂ツヘシ去リナカラ如何ニ此等ノ權利カ重大ノモノニモセ  
 ヲ目途モナク餘リニ法外ノ償金ナトナ科スルハ甚タ好マシカラス宜  
 シク世人カ見テ以テ公平ナリトナス所ノ程度ヲ憑準トナサ、ルハカ  
 ラサルヲ信スルナリ併シ追々法律ノ學問モ進ヌハ損害計算法等ヲ法  
 規モ精密トナリテ標準トナスヘキ事項モ定マルニ至ルコトナラン

第二節 財産ニ對スル私犯ニ由テ

生シタル損害ノ計算

財産ニ對スル私犯ニ由テ生シタル損害ノ計算ハ稍々其標準ヲ得ルニ  
 易キカ如シト雖トモ矢張一定ノ規則ヲ定ムルコト甚タ六ヶ敷シテ多  
 クハ陪審官ノ評定スル所ニ由ルモノトナセリ去リナカラ特別ニ損害

財産ニ對  
 スル私犯  
 ニ由テ生  
 シタル損  
 害ノ計算

ノアリタルトキハ格別ナレトモ通常ハ左ノ二者ヲ以テ其標準トナセ  
 ルモノハ如シ  
 一、非行ニ依テ財産價格ノ減少セル高  
 例ヘハ人アリ不注意ニ依リ余カ所有ノ馬ヲ傷ケタリ而ルニ  
 其負傷前ニハ價格百五十圓ノ馬ナリシニ負傷シタルカ爲メ  
 ニ價格減少シテ五十圓トナリタリトセンカ其負傷前ノ價格  
 ト負傷後ノ價格トノ差引高ハ則チ非行ニ依テ財産價格ノ減  
 少セル高ニシテ余ハ爲害者ニ對シテ要求シ得ヘキモノナリ  
 二、非行ニ附帶シテ當然消費シタル金高  
 例ヘハ前例ニ於テ余ハ馬醫ヲシテ馬ノ負傷ヲ治療セシメタ  
 リトセハ其馬醫ニ余カ支拂ヒタル治療料ノ如キハ則チ爲害

者ノ非行ニ附帶シテ當然消費シタル金高ニシテ又余カ爲害者ニ對シテ要求シ得ヘキモノナリトス

已上ニツノモノハ則チ通常財産ニ對スル私犯ニ由テ生シタル損害計算ノ標準トナスモノナレトモ是レトモ固ヨリ漠然タル標準ニシテ逆モ二ト二ト加算セハ四トナルカ如キキツチリシタルモノニアラサルカ故ニ陪審官ハ時ト場合トニ應シテ損害ノ額ヲ評定スルモノト知ラサルヘカラス夫レ然リ然ルカ故ニ判決例ニ由テ見ルモ物品冒認ノ時ニ於ケル損害計算法ノ如キハ皆ナマチ々々ニシテ初メノ頃ニ於テハ冒認サレタル者ハ其冒認ノ當時ト其後該冒認ニ付審問アル時頃トノ間ニ位セル最高價ヲ冒認者ヨリ受クルコトヲ得ヘシトノ判決ナリシカ近頃ノ判決例ニテハ物品冒認ノ訴訟ニ於テハ冒認ノ當時該物品ノ有シタル市價ヲ以テ損害ノ標準トナスヘシト云フモノ、加シ又他

近因ノ損  
害

人ノ物品ヲ冒認シ之レニ加功シタル時則チ例ヘハ他人ノ穀物ヲ冒認シテ酒ヲ造リタル時ノ如キハ前述ノ標準ニ據ルコト能ハサルヘシコレ非行ニ依テ穀物ノ價格ガ減少シタリト云フヘカラサルノミナラス是全ク其性質ヲ變シテ却テ價高キ酒トナリタレハナリ此ノ如キ場ハ損害ヲ如何計算スヘキカ穀物ノ價ノミヲ要求スルコトヲ得ルモノナルヤ又酒ト變シテ後ノ價ヲ要求シ得ヘキモノナルヤ甚ダ判然セサレトモ米國ノ判決例ニ依レハ被害者ハ爲害者ニ對シテ酒ト變シテ後ノ價格ヲ要求シ得ヘキモノトナセリ之レヲ要スルニ財産ニ對スル私犯ニ由テ生シタル損害ノ計算モ又一定ノ規則ニ依ルヘカラサルナリ

第三節 近因ノ損害

已上二節ニ於テハ損害ノ計算方ヲ陳述シタリシカ通常損害ヲ計算スルニハ固ヨリ遠因ノ損害ハ之レヲ問ハスシテ只ニ近因ノ損害ノミヲ

算入スルナリ語ヲ換ヘテ之レヲ云ヘハ私犯ニ近因セル損害ハ被害者之レヲ要償スルコトヲ得ヘシト云フノ意ナリ然ルニ近因ノ損害トカ又ハ遠因ノ損害トカ云ヘルモ其區別漠然トシテ明ナラス畢竟是レ陪審官ノ鑑定ニ任スルモノナレトモ今二ノ判決例ニ由テ近因ノ損害トハ如何ナルモノナルヤヲ示スヘシ

三、職業上ノ損失ニ他人ノ非行ニ由テ自己ノ身体ニ害ヲ受ケ爲メニ職業ノ一部又ハ全部ヲ中止スルニ至リタルトキノ如キハ其職業ヲ中止シタルカ爲メニ生シタル金錢上ノ損失ハ之レヲ要求スルコトヲ得ヘシ

二、醫藥料ニ他人ノ爲メニ身體ヲ傷ケラレ之レヲ治療スルニ際シ該被害者ヨリ醫師ニ支拂フヘキ義務アル醫藥料ノ如キハ之レヲ爲害者ニ要償スルコトヲ得ヘシ(ジキソン對ベルノ訴件)

米國ノ判決例ニ由ルニ被害者ヨリ醫師ニ支拂フヘキ義務アル醫藥料ヲ他人代テ該醫師ニ其藥料ヲ支拂ヒタル場合ニ於テ該被害者カ丁年者ナルト未丁年者若クハ既婚婦ナルトニ依テ結果ヲ異ニセルカ如シ則チ被害者丁年已上ノ者タランカ他人代テ其醫藥料ヲ醫師ニ支拂ヒタルモ尙ホ爲害者ニ向テ之レヲ要求スルコトヲ得ヘシトナス是レ醫藥料ハ被害者ノ受ケタル損害ノ一部ナリトスル已上ハ他人カ心切上之レチ支拂ヒ呉レタルト自身ニテ支拂ヒタルトニ更ニ區別ナクシテ何レノ場合ニ於テモ爲害者ニ對スルノ權利ニ差違ヲ生セサルナリ(クライン對トムソンノ訴件)之レニ反シテ被害者若シ未丁年者ナルカ又ハ既婚婦ナルトキハ醫藥料ヲ醫師ニ支拂フハ被害者ノ親若クハ夫ノ義務ニシテ之レチ支拂ヒタル後其親若クハ夫ハ爲害者ニ對シテ訴ヘチ起シ其醫藥

料ヲ償ハシムルコトヲ得ルヲ以テ此場合ニハ被害者ハ爲害者ニ  
 對シテ要償ノ權ナキナリ若シ之レヲ許ストキハ爲害者ハ二重ノ  
 損害賠償ヲナサ、ルヘカラサレハナリ

三、死者遺族ノ要償スヘキ損害 被告人ノ私犯ニ由リテ原告人ノ親  
 族ヲ死ニ至ラシメタルトキハ其親族ノ死亡シタルカ爲メニ原告  
 人當然失ヒタル金錢上ノ損害ハ之ヲ被告人ニ要求スルコトヲ得  
 ヘシ是レ則チ彼ノ有名ナルロールド、カムベル條例ノ規定シタル  
 所ノ規則ニ係レリトス抑モ此條例ハ諸君ノ宜シク記憶ニ存シ置  
 クヘキ必要ノ條例ナルカ故ニ一應概畧ヲ講明スヘシ諸君モ聞キ  
 及ヒ居ルコトナランカ元々英國ノ慣習法ニテハ人ニ屬スルノ訴  
 權ハ其人ノ死去ト共ニ消滅スト云ヘル原則ノアルアリテ他人ニ  
 傷ケラレ或ハ他人ノ不注意ヨリ死ニ至ル者ニハ更ニ民事上ノ訴

權ナキモノト定マリ居リテ死シタル者カ訴ヘテ起スコトハ固ヨ  
リ事實上デキ得ヘキ事ナラサレトモ管財人ヨリモ出訴スルコトヲ  
許サ、リシナリ然ルニ歲變リ星遷リ法律ノ研究モ漸次密トナリ  
テ爲害者ヲ刑法上ノミニテ罰シタリトテ死者并ニ遺族等ノ受ケ  
タル損害ヲ償フニ足ルヘキモノニアラスト考ヘタル人アリ遂ニ  
一千八百四十六年ニ至リ此ロールド、カムベル條例ヲ發シタルナ  
リ卽チビクトリヤ卽位第九、第十年ノ條例第九十二章是レナリ今  
其第一節ニ示セル大意ヲ示セハ甲者アリ不法ノ所爲或ハ懈怠ニ  
由リテ乙者ヲ死ニ致シタリ而シテ其之レヲ死ニ致シタルノ所爲  
ニシテ乙者若シ死ニ至ラサリセハ當然自カラ出訴シテ甲者ヨリ  
損害ヲ回復シ得ヘキカ如キ各場合ニハ甲者ノ所爲ノ重罪ニ當ル  
モノタルト否トニ論ナク甲者ハ賠償ノ責ニ任スヘシトノ主意ナ

リ其第二節ハ第一節ニ規定セル訴訟ハ死者ノ父母夫妻又ハ子女  
 ノ爲メニ管財人ノ名義ヲ以テスヘシ而シテ該訴訟ニ由テ利益ヲ  
 受クヘキ者ノ蒙リタル損害ニ對スル償金額ハ陪審官之レヲ定メ  
 利益ヲ受クヘキ權利アル者ニ配當スヘシトノ主意ナリ其三節ハ  
 右ノ訴訟ヲ起スハ被害者死去ノ時ヨリ十二ヶ月内ニスヘシトノ  
 主意ナリ其第四節ハ同一ノ原因ニ對シニ已上ノ訴訟ヲ起スコト  
 ナ得ストノ主意ナリ而シテ此條例ニ又一節ヲ追加セラレタルハ  
 一千八百六十四年ノコトナリキ其節ハ死者ニ管財人ナキカ若ク  
 ハ之レアルモ六ヶ月内ニ訴訟ヲ起サハルトキハ利益ヲ受クヘキ  
 權利アル者ノ名義ヲ以テ出訴スルコトヲ得トノ主意ナリトス而  
 シテ此條例ニ所謂利益ヲ受クヘキ權利アル者トハ父母夫妻又ハ  
 子女ノミニシテ他ニ及ホスヘキモノニアラス尤モ父母中ニハ祖

ニシテ牛馬ノ類ヲ云フ第五製造粗品ハ物品ヲ製造スル粗製品ニシテ織物ヲ製スル生糸綿糸羊毛ノ如キ家屋ヲ作ル木材煉瓦石材ノ如キ或ハ製造品ノ裝飾ニ用ユル材料即チ金箔彩料ノ如キモノヲ云フ第六補助物品ハ直接ニ其形ヲ生産物品ニ顯サス只生産ヲ補助スルニ過キサルモノ例ヘハ製鐵ニ使用スル石炭鑛物採掘ニ用フル硝藥ノ如キヲ云フ第七生活用品トハ生産者ノ生活ニ必用ナル食料衣服ノ如キヲ云フ貿易品トハ商賈力買手ノ需用ニ應スル爲メ備ヘ置ク所ノ賣品ヲ云フ第九貨幣ハ百般ノ引取上使用スル所ノモノニシテ或ハ勞力者ノ備賃或ハ物品ノ買入代價或ハ機械家屋ノ修繕料等ヲ仕拂フニ要用ナルモノトス第十無形資本ハ智識材能信實熟練名聲ノ如キ生産ノ結果ハ有形資本ト異ナルナキモノトス只無形資本ハ之ヲ使用スルモ概シテ消費セラレサルモノナリ又無形資本モ賣買讓與ヲナシ得ヘキモノナリ

則チ商店ノ暖簾ト稱スルモノ、如キ公衆輻湊ノ場所ニ茶店ヲ出ス權  
利ノ如キ是ナリ  
資本ト爲ルルヘキ貨物ノ種類ハ右ニ揚ケタル如クナレトモ之ヲ資本  
トナラシムルニハ使用スルコトヲ必要トス徒ラニ是等ノ貨物ヲ貯藏  
保存シテ使用セサレハ資本タルヘカラス左レハ此諸貨物ヲシテ資本  
タラシメント欲セハ其用ニ從ツテ生産ニ使用スルニ在リ支那人ハ漢  
ノ景帝ノ時都鄙倉廩皆滿京師錢貫朽不可校太倉ノ粟陳々相因抔ト稱  
シテ政府ノ富ヲ誇レトモ是等ハ資本タラシメサルヲ以テ生産上ニ益  
ナキコトハ守錢奴カ庫中ニ金錢ヲ推積シテ樂ムト一班ナリ夫レ資本  
ノ保存ハ尙ホ人々ノ子々孫々相續テ絶ヘサルカ如ク之ヲ消費シテハ  
生産シ復之ヲ消費シテハ再ヒ生産スルモノニシテ徒ラニ貯積シテ使  
用スルコトナケレハ其貨物ハ何ノ用ヲモナサス五穀ノ如キハ遂ニ腐

蝕シテ人ノ需用ニ供スル能ハサルニ至ラン然ルトキハ粒々辛苦ノ結  
果モ火ニ燒キ水ニ投スルト同一ナリト云ヘシ  
爰ニ一ノ注意スヘキハ世人動モスレハ資本ハ必ス貨幣ニ限ルト考フ  
ルコト之レナリ今其誤謬ヲ來シタル因由ハ他ナシ總テ財産ヲ算ルニ  
貨幣ヲ以テシ百業ノ資本ヲ算ルニモ貨幣ヲ標準トシテ甲業ノ資本幾  
何ト云ヘハ何万何千圓ト稱シ合本會社ノ如キモ資本ヲ集ムルニ多ク  
ハ貨幣ヲ以テシ貨幣サエアレハ如何ナル事業ヲ營ムニモ實際差支ナ  
キヨリ深ク資本ノ性質ヲ思ハス直チニ貨幣ヲ以テ資本ナリト考フル  
ニ至リシモノナリ尤モ貨幣ハ需用ノ廣キカ故ニ交換上至便ニシテ貨  
幣サエアレハ何時ニテモ殆ント其欲スル所ノモノヲ得ヘキモノナレ  
トモ貨幣ナキモ生産ヲナシ難キニアラス又貨幣ノミアレハトテ如何  
ナル生産ニテモ爲シ得ヘシト云フヘカラス金銀ノ衣服ハ着クヘカラ

不動資本  
流動資本

ス農業ヲ爲スニ銅貨ヲ撒クモ米麥ハ生スルモノニアラサレハ資本ハ必ス貨幣ナリト云テ得サルモノトス例エハ木綿ヲ製造スルニハ生綿紡績機械等アリテ之ニ勞力ヲ加フレハ足ル一ノ勞力者ヲ育フニ其必要ナル物品ヲ以テスレハ貨幣ヲ與ヘサルモ尙ホ之ヲ使役シテ勞働セシムヘシ然ラハ則チ貨幣ハ交換取引ヲ圓滑ナラシムル最上ノ要具タルニ相違ナシト雖モ之ヲ以テ資本ト異名同物ナリト考フルハ大ニ誤ナリト云ヘシ

却説<sup>サ</sup>貨物ヲ資本トシテ使用スル方法ハ一様ナラス之ヲ大別シテ二トス曰不動資本流動資本之レナリ不動資本トハ其所有者ニ於テ生産ノ爲メ數回使用スルヲ得ヘキ資本ヲ云ヒ流動資本トハ或ル生産ノ爲メ只一回ノミ使用スル資本ヲ云フ故ニ農業用ノ鋤鋤牛馬製造用ノ機械家屋ハ不動資本ニシテ農夫工夫ノ食料播ク所ノ種子製スル所ノ素品

ハ流動資本ナリ夫レ農夫ノ鋤鋤牛馬ハ耕作ノ爲メ一回使用スレハト  
 テ直チニ消滅スルモノニアラス一挺ノ鋤一頭ノ牛ヲ以テ能ク數年ノ  
 間耕殖ヲ爲スヲ得ヘシ然レトモ之ヲ使用スレハ漸次消費スルヲ以テ  
 數年ノ後ハ鋤鋤ハ毀損スヘク牛馬ハ老衰スヘク遂ニ生産ノ用ヲ爲サ  
 ヲルニ至ル左レハ不動資本ハ生産ノ度毎ニ其消費シタル丈ノ價格ヲ  
 生産シタル物品ヨリ辨償スルヲ得レハ足ルモノニシテ一時ニ資本ヲ  
 取戻スヲ要セス之ニ反シテ食料ノ如キハ一度口ニ投スレハ其形ヲ失  
 フヘク繰綿ノ如キハ木綿トナレハ再ヒ繰綿ノ用ヲ爲サス皆一回使用  
 ノ後ハ再ヒ同一ノ生産用ニ供スルヲ得サルナリ之ヲ以テ流動資本ハ  
 一生産毎ニ生産シタル物品ヨリ其費シタル全價格ヲ回復スルヲ要ス  
 例ヘハ木綿ノ製造家カ木綿ヲ製造スルニハ繰綿ヲ消費シ勞役者ヲ使  
 役シ機械家屋ヲ使用スヘシ而シテ其製造シタル木綿ヲ賣ルトキハ其

代價ヲ以テ繰綿ノ代價ヲ償ヒ勞力者ニ給シタル勞銀ノ額ヲ復シ尙機  
 械家屋ノ價格ノ一部分ヲ得ンコトヲ期スヘシ是レ繰綿勞銀ハ流動資  
 本ニシテ機械家屋ハ不動資本ナレハナリ  
 右ノ如ク不動資本ト流動資本トノ別ハ其用法ヨリ定ムルヲ以テ同一  
 ノ貨物ト雖モ或ハ不動資本ト爲リ或ハ流動資本ト爲ルヘシ例ヘハ馬  
 車ノ如キ商業者ノ店頭ニ在リテ賣品タルトキハ流動資本ナレトモ貸  
 馬車營業人之ヲ買フテ貸馬車トナストキハ不動資本ナリ然ルニ不動  
 資本モ亦多クハ轉シテ流動資本ト爲ルモノトス則チ右ノ貸馬車ノ如  
 キ其貸馬車タル間ハ不動資本ナレトモ其毀損スルニ至レハ木造ノ部  
 分ハ薪トナルヘク鐵製ノ部分ハ賣ラレテ釘トナルカ又ハ他ノ鐵具ト  
 ナルヘキヲ以テ變シテ流動資本トナルヘキナリ  
 既ニ前ニ述タル如ク資本ハ生産ノ爲メニ貯蓄シタルモノナルヲ以テ

生産ノ目的ヲ以テ使用スルニハ相違ナケレトモ其使用セラレタル資本ハ必ス生産ヲナスヘキモノナリトハ稱シ難シ若シ營業者資本ヲ使用スルコト巧ミナラサレハ之ヲ浪費スルヲ免レス然ルトキハ之レカ爲メニ生産ヲ爲ス能ハサルノミナラス却テ國家ノ資本ヲ害フニ至ルヘシ例エハ製造ヲ爲スニ機械ノ不充分ナルモノヲ用フルトキハ同一ノ資本額ヲ用ユルモ其完全ナル機械ヲ使用スルモノニ比スレハ其生産高遙ニ之ニ及ハサルヘシ然ラハ其營業ニ於テハ例令相當ノ利益アルニモセヨ十分ニ資本ノ効驗ヲ逞フセサルヲ以テ多少資本ノ浪費ヲ免レサル者ト云フヘシ如此コトハ政府ニ於テ營業ヲ保護スル場合杯ニ往々行ハル、モノトス何トナレハ此場合ニ於テハ營業者ハ自ラ奮フテ銳ヲ養ヒ力ヲ極メテ競争ニ當ルノ要用ナキヲ以テ資本ノ効驗薄キヲ願ミサルヲ以テナリ嘗テ合衆國ニ於テ或製造ノ事業ニ付キ委員

ナ歐州ニ派遣シテ調査ヲ爲サシメタルコトアリ該委員ハ或製造所ニ  
 臻リ粗生品ノ買入ヨリ仕上荷造ニ至ルマテ總テ製造ノ手續キテ調ヘ  
 又勞銀ノ割合ヨリ勞力者ノ智力就業時間等ヲ調査シタルニ其物品カ  
 重キ輸入稅ヲ課セラル、ニモ拘ハラス合衆國ヘ輸入セラル、コトノ  
 不審ニ堪ヘサリシヲ以テ其理由ヲ營業主ニ質問セリ然ルニ營業主ハ  
 莞爾トシテ答フルニ余モ其理由ハ詳ニ知ルコトヲ得サレトモ我輩同  
 業者ハ嘗テ此物品製造ニ付テ日耳曼ノ營業者ト競争シ舊機械ヲ廢シ  
 テ新機械ノ改良シタルモノニ代ヘタルコトアリ當時其我輩カ廢棄シ  
 タル舊機械ハ合衆國ヘ賣ラレタリト云ヘリ然ラハ合衆國ニテハ其不  
 完全ナル舊機械ヲ用ユルカ故ニ低價ニ生産ヲナス能ハサルコトナル  
 ヘシト云ヲ以テセリ嗚呼合衆國ノ營業者ハ保護稅ヲ賴ンテ目前ノ小  
 利ニ眩シ他人ノ廢棄シタル古機械ヲ使用シ資本ノ効驗ヲシテ十分ナ

ラシメス國家ノ損失タル豈ニ小ナランヤ又營業ノ爲メニ巨額ノ資本  
ヲ費シテ然ル後之ヲ廢止スルカ如キコトアラハ資本ノ徒費スルコト  
一層大ナルヘシ例ヘハ一ノ鐵道會社ヲ創設シ株金ヲ募リテ鐵道ヲ布  
設シタルニ貨物ノ運輸旅客ノ往復少ナキヲ以テ開業後久シカラスシ  
テ閉社センカ株主ノ損害ハ勿論國家ニ於テモ資本ヲ海中ニ投シタル  
ト均シキ損失アルヘシ如此キ事ハ商業繁榮ノ國ニシテ諸榮業非常ニ  
繁昌シ資本充實シ利子ノ度外ニ減少シタル時杯ニハ往々發スル所ノ  
現象ナリ此場合ニ於テハ資本家ハ資本ノ放下ニ苦ミ苟モ少シク利ア  
リト見レハ其業ニ放銀センコトヲ求ムルヲ以テ無謀ノ投機者續々輩  
出シ僥倖ヲ萬一二期シテ遂ニ資本ヲ消滅シ盡スコト少ナカラズ其他  
疏水築港等其當ヲ得サレハ工事成ルト雖モ水道ハ田地ヲ灌漑スルニ  
足ラス港灣ハ以テ船ヲ繫クニ由ナク其資本ハ毫モ生産ヲ資クルニ足

貯蓄ノ源

ルヘシ之ヲ小ニシテハ士族ノ商法書生ノ著譯資本ヲ蕩盡シテ生産ヲ  
ラサナサハルモノ少シトセス  
夫レ資本ハ貯蓄ニ成ルヲ以テ貯ヘサレハ資本生セス又之ヲ増加スル  
ヲ得ス而シテ人民カ貯蓄ヲ爲スニ至ルハ秩序遠慮克己ノ三者之カ源  
因タリ  
社會ノ秩序治マラサレハ財産ノ保護足ラス財産ノ保護安全ナラサレ  
ハ人々刻苦シテ貯蓄ヲ爲スモ之ヲ私有シテ其成功ヲ樂ムヲ得ヘキヤ  
否ヤヲ知ルヘカラス其確信スヘカラサルコトヲ期シテ何ヲ以テ辛抱  
ヲナサンヤ夫ノ軍人水夫ノ如キヲ見ヨ有事ノ日ニアリテハ貯蓄ヲナ  
スモノ殆ント稀ナリ惡疫流行シ慘毒ヲ逞スル日ニ當リテヤ人心恟々  
朝ニ夕ヲ計ルヘカラサルヲ以テ貯蓄ノ念慮甚タ薄キモノトス是レ他  
ナシ如此場合ニ於テハ人々小心謹慎儉約辛抱ヲ爲スモ果シテ其結果

ハ我有トナルヲ得ヘキヤ否ヤ確期スヘカラサルヲ以テ寧ロ快ク一時  
ニ取ルノ勝ルニ如カスト考フルヲ以テナリ然ルニ人將來ヲ慮ハカリ  
天ノ未タ陰雨セサルニ當リ牖戸ヲ綢繆スルノ深思ナケレハ假令社會  
ニ秩序アリト雖モ貯蓄決シテ多キヲ得サルナリ先哲云ヘルアリ人遠  
キ慮ナケレハ必ス近キ憂アリト血氣ノ盛ナルニ當リ只目前ノ快樂ヲ  
事トシテ後日ノ計ヲナサ、ルモノハ一朝疾ヲ得身体ノ勞働自由ヲ得  
サルコトアレハ忽チ饑寒ヲ免レサルヘシ其妻子アルモノハ禍一身ニ  
止マラス妻子ヲシテ相率ヒテ食ヲ道路ニ乞ハシムルニ至ルヘク或ハ  
身老テ自ラ生計ヲ營ム能ハサルニ至レハ獨立スルヲ能ハス老テハ子  
ニ從ヘノ古言ヲ守リテ殘念ナカラモ子供ノ厄介トナラサルヘカラス  
此ヲ以テ苟モ將來ノ慮アルモノハ其壯ンナルニ當リテハ漫ニ自暴自  
棄ノ行ヲナサス銳意貯蓄スヘキナリ然ルト雖モ入ハ情慾ノ爲メニ左

右セラル、チ免レサルヲ以テ其意貯蓄ニアリト雖モ自ラ其慾ヲ制ス  
 ルコト能ハサレハ貯蓄ハ只其意志ノミニシテ之ヲ實行スルヲ得ス於  
 是乎克己ト云フモノナケレハ其實效ヲ見サルヘシ嘗テ耶蘇教ノ宣教  
 師方南亞米利加ノ巴拉グワイ國ニ至リシトキ其土人ノ未タ耕殖ヲ知  
 ラサリシヲ以テ之ヲ導キテ耕作ノ業ヲナサシメント欲シ五穀ノ種子  
 ナ與ヘタルニ土人ハ之ヲ地ニ施セハ數月ニシテ幾十倍ノ收穫ヲ得ヘ  
 キヲ知ラサルニハアラサレトモ將來ヲ慮ハカルノ念慮薄キカ故ニ眼  
 前ノ貪慾ヲ制スルノ耐忍ナキ直チニ其種ヲ取リテ食ニ供シ殖エルコ  
 トヲナサ、ルニハ殆ント困却セリト云フコトアリ蟻能ク蟻牛ヲ牧シ  
 蜂能ク蜂蜜ヲ貯フルヲ知ル人ニシテ蟻蜂ニタモ如カサルハ豈ニ哀シ  
 カラスヤ

已ニ社會ニ秩序アリ財産ノ保護安全ニシテ人民能ク將來ヲ慮リ能ク

情慾ヲ制スルヲ得レハ貯蓄増加スヘシト雖モ尙殖利ノ大小如何ニ由テ其間増減ヲ免レサルモノトス夫レ人々ノ貯蓄ヲナスヤ只目前ニ得ヘキ快樂ヲ忍ンテ後日ニ移スノミナラス其貯蓄ヲ以テ一層大ナル快樂ヲ得ント欲スレハナリ去レハ後日ニ得ヘキ快樂ノ大小ニ由テ其貯蓄ニ増減アルヘキハ論ヲ待タサルナリ故ニ若シ資本充溢シテ誰モ之ニ利子ヲ付シテ借ルモノナキニ至レハ富豪家ニシテ悉ク其歲入ヲ使用スルノ道ナク知ラス識ラス殘資ヲ貯フルカ又遠慮深キモノニシテ殖利ヲ意トセス貯蓄ヲナスカノ外ハ皆多クハ其貯蓄スル所ノ量ヲ減シテ今日ノ快樂ニ供スヘク之ニ反シテ利子非常ニ高キトキハ無慾ナルモノ又ハ情慾ノ爲メ放心シタルモノ、外ハ多少其慾ヲ制シテ貯蓄ニ供スルヲカムヘキハ敢テ疑ヲ容レサルナリ

右ノ次第ナルヲ以テ開明進歩シ人智開發スルニ從ヒテ國家ノ資本増

加スヘク殊ニ新國ニシテ其進歩駸々駟馬ヲ驅ルカ如クナルトキハ人  
 民貯蓄ノ念甚盛ンニシテ資本ノ増加甚タ旺ンナルモノトス英國ノ資  
 本ハ歲入稅ノ總計ニ據レハ歲入稅トハ其人周歲ノ所得ニ賦課スル稅  
 ニシテ例ヘハ所得十分ノ一ノ稅ト假定スレハ百圓ヲ上納スル者ハ千  
 圓ノ歲入アルヲ推知スルヲ得ヘシ然レトモ此歲入稅ナルモノハ確實  
 ナルコトハ固ヨリ期スヘカラス英國ノ法ハ人民ノ申告ニ基テ此稅ヲ  
 課スルヲ以テ株券若クハ公債證書ノ如キモノヨリ得ル歲入ノ外ハ明  
 確ニ知ルヲ得スト雖モ資本増加ノ形勢ヲ見ルニハ敢テ差支ナカルヘシ  
 千八百四十三年ヨリ千八百五十三年マテハ大貌列顛ニ於テ少クモ年  
 ヲ四千二百萬ポンド千八百五十四年ヨリ千八百六十年マテハ合衆王  
 國ニテ少クモ一億千四百萬ポンド千八百六十三年ニハ一億三千萬ポ  
 ンドヲ増加セリ英國資本ノ夥多ナルハ其國內ノ營業ニ於テ不要ノ巨

資本ノ放  
下

額ナル資本ヲ用フルヲ以テ其旋轉遲緩ニシテ利益ノ割合益小ナリト云フト其資本ヲ外國ニ輸出シテ放銀スルコトノ盛ンナルトヲ以テ之ヲ推知スヘキナリ

扱其貯蓄シタル資本ヲ使用スルヲ放銀即チ「インヴェストメント」ト云フ蓋シ放銀ノ方法二種アリ進取放銀「アクチーブインヴェストメント」退守放銀「パッシーブインヴェストメント」之レナリ進取放銀トハ資本ヲ事業ニ投シテ損益ヲ負擔スルモノニシテ直接ニ農工商諸業ノ資本ニ使用スルヲ云ヒ退守放銀トハ直接ニ資本ヲ企業ニ放下セス坐シテ收入ヲ得ンコトヲ計ルモノニシテ公債證書ヲ買ヒ又ハ銀行ニ預ケ入ル、カ如キヲ云フ此二種ノ放銀ハ資本家ニアリテハ各一得一失ニシテ其可否ヲ定ムヘカラス進取放銀ハ利益ノ割合多キニ相違ナケレトモ之ヲ失フノ恐レモ亦大ナリ其危険ヲ犯セハコソ其報酬トシテ割合

ニ大ナル利益ヲ得ルモノナレハ時トシテ其資本ヲ失フ覺悟ナカルヘ  
カラス故ニ活潑敢爲ノ人ハ多ク進取放銀ノ道ヲ取ル然ルニ退守放銀  
ハ之ニ反シテ利益ノ割合ハ勿論小ナルヘキモ資本ヲ失フヘキ機會モ  
亦少シ故ニ小心謹慎ノ人ハ之ヲ失ハンヨリ寧ロ小利益ヲ以テ満足ス  
ルニ如カスト爲シ多クハ退守放銀ニ依ルモノナリ右ノ如ク二種ノ放  
銀ハ其得失相半ハスルヲ以テ孰レヲ利トスヘキト定メ難シト雖モ此  
二者ハ相待チテ行ハレサルヘカラス若シ進取放銀アレトモ退守放銀  
ナケレハ資本トナルヘキモノニシテ生産ニ使用セラレサルモノ多ク  
空シク庫中ニ死藏セラルヘシ如何トナレハ一國ノ人皆自ラ其資本ヲ  
使用スヲ得ヘキモノニアラサレハナリ其性質ニ依リ自ラ事業ヲ經營  
スルニ不適當ナルモノアリ其職業ニ由リ自ラ生産ニ従事スル能ハサ  
ルモノアリ此輩ノ如キハ退守放銀ヲ執ラサレハ其貯蓄シタル富ハ之

組合ニ關  
係アルヨ  
リシテ組  
合員ノ得  
ル利益

組合員ハ組合員タルノ故ヲ以テ初メテ營ミ得ヘキノ營業ハ組合ト離  
レテ別ニ自己限りニ之ヲ營ムコトヲ得ス是レ組合ニ對シ畢生ノ力ヲ  
盡ス可キ義務アルカ故ニ從テ組合ト反對ノ地位ニ立チ組合ニ不利益  
ナルコトニ從事スルヲ得ス故ニ己レ組合員タルノ故ヲ以テ他ニ利得  
ヲ得ルノ道アルモ一箇ノ事業ナリトノコトヲ口實トシテ其利得ヲ得  
ント計畫スルコトヲ得ス例ヘハ鐵道ノ組合社アリ驛遞局ヨリ御用品  
ノ運送ヲ委託セラレタルコトアリタランニハ其後其組合ノ一人ハ寄  
カニ驛遞局長ト協議シテ自己限りニ御用品ヲ運送スルヲ得ス若シ運  
送シテ利益ヲ得レハ其利益ハ組合ト共ニ分配セサル可カラス是レ其  
組合ノ一人カ運送ヲ局長ヨリ依頼セラレタルハ己レカ組合ノ一人ニ  
屬シ曾テ其組合ニ於テ御用品ノ運送ヲ引受ケタルコトアルカ故ニ局  
長モ組合ノ一人タルノ故ヲ信用シテ其組合員ニ運送ヲ命シタルモノ

判例  
組合ト格  
別ナル商  
業

ナレハナリ  
又一例ヲ示サンニ甲乙契約シテ組合ヲ爲シ甲ノ名義ヲ以テ陸軍省ノ  
賄方御用ヲ請負居リタルニ甲ハ乙ニ告ケスシテ窃カニ丙ト契約シ同  
シク丙ノ名義ヲ以テ同所ノ賄方ヲ引受ケ雙方ヨリ利益ノ分配ヲ受ケ  
タル此場合ニ於テ乙ハ甲カ丙トノ契約ヨリシテ分配ヲ受居ル所ノ利  
益ヲ己レモ同シク分配ヲ受ケント請求シタルニ甲ハ丙トノ組合ハ更  
ニ乙ニ關セサルコトナレハ其利益ヲ乙ニ分ツヲ得スト主張シ遂ニ訴  
訟トナリタルニ右事件ニ關スルノ先諭ニ曰ク凡ソ組合ノ場合ニ於テ  
ハ設ヒ組合員間ニ他ノ同種ノ事業ニ立チサワラサルコトヲ別段ニ取  
極メ置カストモ組合員ノ一人カ自己ノ名義又ハ他人ノ名義ヲ以テ組  
合ト同種ノ商業ニ關與シ以テ組合ヲ害スル如キコトハ互ニ之ヲ爲サ  
ル可シトノ合意ヲ以テ組成セラレタルモノト見做シ得ヘキナリト

組合ト競  
争スルヲ  
禁ス

謂ヘリ  
前述ノ理由アルカ故ニ組合員タル者ハ之ヲ公然ニスルト否ニ拘ハラ  
ス利己ノ爲メ組合ノ商業ト競争シテ他業ヲ營ムコトヲ得サルモノト  
ス然レトモ爲メニ一身上ノ利害ノ相抵觸セサル如キ場合ニ於テハ互  
ニ之ヲ營ムモ毫モ組合ノ商業ニ影響ヲ及ボサ、レハ此等ヲモ猶箝束  
スル限リニアラサル可シ例ヘハ此ニ互ニ競争中ノ二商社アランニ右  
二商社ノ株券ヲ一人ニテ所有シ居ル場合ノ如キ是ナリ  
互ニ信義ヲ盡ス可キノ義務ハ獨リ己ニ成立シタル組合員間ノミナラ  
ス組合ヲ組織セント協議中ノ人々ヘモ尙望ム可キノ責任ナリトス例  
ヘハ其協議者ノ一人カ組合ノ爲メニ財産ヲ買入ル、ニ當リ手数料等  
ヲ賣手ヨリ得タルトキハ組合成立ノトキニ於テハ組合ト共ニ之ヲ計  
算セサル可カラス決シテ自己一人カ一身上ノ働キヨリ得タル手数料

組合員間  
ノ争件

ナリトテ己レノミニ入ル、ヲ得ス  
〔第四〕組合員多數ノ權力ヲ論ス  
業務上ニ付組合員間意見ノ合同セサルトキハ如何處分ス可キヤ普通  
世間ノ事務ヲ處スルヤ多クハ斯ル場合ニハ多數ノ意見ヲ採用シ少數  
者ノ意見ハ自ラ消滅セシムル如キコトニ爲リ居レトモ組合ノ場合ニ  
於テハ多數者カ強テ少數者ノ意見ヲ滅却スルコトヲ許スハ僅々數箇  
ノ場合ニ止リ先ツ主眼トスル所ハ強テ多數ノ意見ニ制セラレサル可  
シトノ事ヲ以テ本則トナスナリ  
先ツ第一ニ起ル所ノ問題ハ争件ハ組合規約ニ規定シアルヤ否ヲ確ム  
ルニアリ若シ組合規約ニ規定シアレハ多數少數者ノ意見如何ナルニ  
拘ハラス必ス其規定ニ基キ其争件ヲ決セサル可カラス若又之レニ反  
シ規約書ニ何等ノ記載モナキトキハ茲ニ初メテ其争件ノ性質ヲ研究

別争件ノ區

營業上ニ  
關スル争  
件

セサル可カラス而シテ其争件ヲ大別スレハ普通營業上ニ起ル所ノ争  
件營業以外ノコトニ關スル争件ノ二箇ニ分ル可シ先ツ第一營業上ヨ  
リ起ル争件ニ付テ論センニ凡ソ營業上ニ關シ争件ヲ起ストキハ先ツ  
現ニ行ヒ居ル所ノ方法ヲ變更セント欲スル意見ヲ後ニセサル可カラ  
ス例ヘハ現任書記ヲ廢シ更ニ新書記ヲ雇入ントノ意見ヲ提出スル組  
合員アリテ組合員中意見平等ニ分ル、トキハ先ツ事務ノ現狀ヲ變セ  
ントノ意見即チ書記ヲ代ヘントノ意見ハ廢斥セサル可カラス然レト  
モ若シ事務ノ現狀ヲ變セントスルノ意見多數ナルトキハ則チ其多數  
ニ從ハサル可カラス之ヲ要スルニ現ニ行ヒ來リタル事務ノ方法ハ之  
ヲ變セントノ多數ノ意見アルニアラサレハ之ヲ變スルヲ得ス若シ意  
見平等ナレハ變改ヲ主張スル意見ヲ消滅セシメ現狀ニ据ヘ置サルヘ  
カラスト云フニ在リ又負債ヲ拂ハスシテ先ツ利益ノ分配ヲ爲サント

ノ意見金圓ヲ借り入レントノ意見負債消却ノ爲メニ組合所有ノ財産  
 ノ管理者ヲ撰ヒテ之レニ引渡サントノ意見組合所有ノ財産ノ一部ヲ  
 賃貸セントノ如キハ大抵多數ノ意見ニ由リ決定セラル可キモノナレ  
 トモ組合ノ名義ヲ以テ調印ヲ爲スコトヲ其組合員ノ一人へ委任セン  
 トノ意見ノ如キハ設ヒ多數者之ヲ主張スルモ少數者ノ不同意アルト  
 キハ到底決行スルヲ得サル可キナリ其他組合カ營業上普通ニ爲ス可  
 キ所業ハ多ク多數ノ意見ニ由リ決定セラル可キモノナリ例へハ火災  
 保險ヲ營業トスル組合アリ其組合員ノ多數者カ保險證書中ニ列記セ  
 サル以外ノ原因ヨリシテ起リタル損失ニ對シ保險金ヲ拂ヒタルトキ  
 ノ如キ若シ夫レ凡テ他ノ火災保險社ニ於テハ此等ノ損失ハ保險證書  
 中ニ列記シ置カサルモ常ニ其損害ヲ拂ヒ居ル習慣アレハ此等ノコト  
 ハ則チ營業上當然爲シ得ヘキコト、見做スヲ以テ少數者ハ之ヲ拒ム

コトヲ得ス  
 然レトモ設ヒ多數者ト雖モ多數ノ故ヲ以テ隨意ニ事務ノ方法ヲ變更  
 スルヲ得ス必ス組合員一同カ相當ニ協議ヲ爲シタル上各自カ誠意ニ  
 思考スル所ノ意見ヲ提出シ其意見合シテ多數ヲ占メタル場合ナラサ  
 ル可カラス決シテ多數者ハ我等ハ多數者ナレハ他ノ論ヲ聞クニ及ハ  
 ス何事ヲモ我等ノ好ム所ヲ爲シ得ヘシト云フ如キハ決シテ法庭ノ許  
 容セサル所ナル可シ加之規約上ニ組合員何人以上ニアラサレハ事  
 務ノ方法ヲ議決スルヲ得スト規定シアランニ若シ定限ノ人員内ニテ  
 議決シタル如キコトアレハ設ヒ定限以上ノ出席アルモ猶同一ノ議決  
 ヲ爲シ得ヘキコト判然タル場合ト雖モ猶其議決ハ効力ヲ有セサル可  
 シ  
 是ヨリ營業以外ノコトニ關スル争件即チ營業ノ目的ヲ變更セント企

ツル如キ場合ニ於テ起ル所ノ事件ニ付テ一言センニ此場合ニ於テハ設ヒ何程ノ多數者アルモ多數ノ故ヲ以テ營業ノ目的ヲ變更スルヲ得サルモノトス如何トナレハ一定ノ目的ヲ立テ、初メテ組合ノ成立シタルモノナレハ其成立ノ基礎タル組合營業ノ目的ヲ變スルハ則チ組合ヲ解散スルト一般ナレハ一人タリトモ不同意者アルニ於テハ到底之ヲ變更スルヲ得サル可シ例ヘハ火災保險ノ組合ヲ爲ス者多數者ノ意見ヲ以テ其保險ヲ海上ノ事柄ニ變セントスルカ如キ一人ノ不同意者アレハ到底行ハレサルナリ若シ多數者ニ於テ強テ之ヲ決行セントセハ小數者ハ裁判所ニ請願シテ多數者ノ所爲ヲ停止スルコトヲ得ヘシ例ヘハ鐵道組合カ鐵道線路ヲ轉セントスルトキ又ハ石炭賣買ノ營業ヲ營マント企ツルトキ等ノ如キコトハ多數ヲ以テ決行スルヲ得サルナリ然レトモ組合員一同カ營業ノ目的ヲ變セントスルコトニ同意

The property of  
partnership

Capital of  
partnership

スルニ於テハ之レヲ決行シ得ヘキハ固ヨリ論ヲ待タス元ト組合ハ契  
約ヨリ成立スルモノ故全組合員一致スレハ法律ノ許ス限リハ何事ヲ  
モ爲シ得ルナリ但シ會社商社等條例ヲ遵奉スルモノハ設ヒ社員ノ一  
致アルモ其條例ニ違背シタルコトハ之ヲ決行スルヲ得サルナリ

### 第十七回

組合ノ資本ヲ論ス

組合ノ資本トハ營業上ニ下ス爲メ各自カ持寄タル金額ヲ云フ故ニ其  
金額即チ資本ハ營業上ニ使用スルノ目的ヲ以テ備ヘ置クモノトス左  
レハ之ヲ組合ノ資産ト區別セサル可カラス組合ノ資産ト云ヘハ甚ダ  
廣キ意味ニテ自ラ資本モ之レニ包含セラル、譯ナレトモ資本ハ確定  
シテ動カサルモノナリ資産ハ組合ノ盛衰ニ從ヒ時々變更シ一定不動  
ノモノニハアテサルナリ其ノミナラス組合員各自ノ資本ト組合員各  
自カ組合ニ貸附タル金額トハ之ヲ區別セサル可カラス例ヘハ資本金

資本金ノ  
増減

ハ隨意ニ之ヲ引出スコトヲ得サルモ貸金又ハ預ケ金ハ如何様ニモ其  
出納ヲ爲シ得ヘク又組合解散ノトキ組合ノ資産カ其負債ヲ支拂フニ  
充分ナラサルトキノ如キハ先ツ貸金又ハ預リ金ヲ先キニ支拂ヒ而シ  
テ後ニ資本金ノ割戻ヲ爲サ、ル可カラス又組合員ノ資本金ハ必ス其  
額ヲ明確ニ爲シ置カサル可カラス若シ各自ノ資本金平等ナラサルト  
キノ如キハ其金額ヲ定メ置カサレハ之ヲ平等ト見做サル、如キ不幸  
ヲ見ル可キナリ

組合ノ資本欠乏ヲ告ケ商業前途ノ見込立タサルトキハ組合ヲ解散ス  
ルニ至ル可キナリ此場合ニ於テ組合員ハ猶資本金ヲ増シテ營業ヲ繼  
續センコトヲ強ラル、ノ義務ナク既ニ當初各自ノ合意ニ由リ營業上  
ニ用ユ可キ資本金ノ高ヲ取極メテ差出タル後ハ設ヒ増加ヲ要スルノ  
必要アルモ組合同ノ承諾ヲ經スシテ隨意ニ増減ヲナスヲ得ス尤モ

Joint and separate  
property

資本金額ハ當初取極メタルヨリ以外ニ増減ヲ許サ、ルモ爲メニ他ニ對スル義務ニ影響ヲ及ホスコトナキナリ是レ他ニ對スル各自ノ責任ハ始メ之ヲ一定スルヲ得サルヘケレハナリ又既ニ組合ヘ資本金ヲ差出タル上ハ其豫定ノ營業期限間ハ組合ニ其使用ヲ許サ、ル可カラス途中ニテ隨意ニ引出スコトヲ得サルナリ

此ニ組合ノ資本ヲ増加スルコト、組合ノ名義ヲ以テ金圓ヲ借入ル、ノ職權トチ區別シ置カサル可カラス前ニモ云フ如ク各組合員ハ營業上必要ナルトキハ組合ノ名義ヲ以テ他ヨリ金圓ヲ借入ル、コトヲ得ルガ通例ナレトモ資本金ヲ差出ス爲メニ組合ノ一人カ借入レタル金額ヲ組合ニ於テ償却スルノ義務ナキモノトス

合有并別有財産ヲ論ス

組合ノ資産トハ如何ナルモノヲ指スカト云フニ一言スレハ組合員カ

Joint estate  
Separate estate

組合員トシテ所有スル所ノ資産ヲ云フ故ニ組合員各自ハ不動産等ノ遺囑贈與ヲ受クルニ其不動産ハ組合員カ唯共有スルノミニテ組合員トシテ所有スルモノニアラサル限りハ之ヲ以テ組合ノ財産ト爲スヲ得ス故ニ組合ノ財産ナルカ將タ組合員一個限りノ財産ナルカヲ區別スルニ困難ナル場合少カラス從テ争ヒテ生スルコト往々アルヘキナリ是レ獨リ組合員間ニ起ル所ノ争ノミナラス債主ニ對スル場合ニ於テモ猶生スル所ノ問題ナリトス例ヘハ組合身代限りノ場合ニ於テ組合ノ財産ト組合員ノ資産トハ之ヲ分別セサル可カラス如何トナレハ債主ハ先ツ組合ノ財産ヲ盡シタル上後ニ各自ノ資産ニ及フテ通則ト爲スカ故ナリ故ニ是ヨリ組合ノ財産ニ付左ノ條項ニ照シ之ヲ論セン

第一 合有財産

第二 別有財産

第三 合有財産ヲ別有財産ニ變シ別有財産ヲ合有財産ニ變スル

コト

先ツ第一ノ合有財産ヨリ之ヲ論セン

合有財産

第一 合有財産

凡テ組合創立ノトキ組合ノ財産トシテ寄セラレタルモノ并ニ其以後  
 營業上ヨリ直接又ハ間接ニ得タル所ノモノハ反對ノ證據ナキ限りハ  
 組合ニ屬シタルモノト見做サル可シ故ニ組合ノ金額ヲ以テ買入レタ  
 ル財産ノ如キハ設ヒ組合員一人ノ名義ニテ買入レタルトキト雖モ其  
 組合員ハ則チ組合財産ノ委託人ニ過キスシテ己レノ名義ニ爲リ居ル  
 コトヲ以テ己レノ財産ナリト主張スルコトヲ得ス例ヘハ組合ノ所有  
 金ヲ以テ土地ヲ買入レタルニ縱令其買入人ノ名義ハ組合ノ一人ニテ  
 別ニ組合ヨリ委託ノ證據ナキモ猶組合ノ財産トシテ取扱ハル可キナ

組合ノ金  
ヲ以テ買  
入レタル  
財産  
船舶ノ場  
合

組合法

リ又組合ノ金ヲ以テ或ル會社ノ株券ヲ買入レタルトキ其會社ノ規則  
ニシテ數人ニテ株券ヲ共有スルヲ許サル、ヨリ組合員一人ノ名義ヲ  
用ヒタルトキノ如キ場合ト雖モ猶組合員ハ己レ所有名義ノ株券ナリ  
トテ之ヲ如何トモスル能ハサルナリ唯困難ナルハ船舶ノ場合ニシテ  
凡ソ船舶ハ内部ノ關係如何ニ係ラス表面其名義人ノ所有ト見做カ故  
ニ若シ組合員一人ノ名義ヲ以テ組合カ船舶ヲ買入レ營業上ニ使用シ  
居リタルトキ若シ其一人カ己レ名義ノ船舶ナルコトヲ奇貨トシテ之  
ヲ專有センコトヲ試ムル如キコトアル可シ然レトモ近代ノ法律ニ由  
レハ船舶ノ場合ト雖モ猶其名義人ナル組合員組合ノ爲メニハ信任委  
托者ニ過キサルモノト見做サル、ナリ  
夫レ斯ノ如ク組合ノ所有金ヲ以テ買入レタルモノハ凡テ組合ノ財産  
ト見做スト雖モ之ニ反スル證據アルトキハ固ヨリ其推定ハ破ラル、

ナリ例へハ組合員ノ一人カ組合ヨリ金圓ヲ借入レ而シテ自己所用ノ爲メ財産ヲ買入レタリトセハ其財産ハ組合ニ屬ス可カラス之ニ反シ組合カ常ニ使用シ居ル所ノ財産ハ設ヒ組合員ノ一人カ私有金ヲ以テ買入レタルモノナルトキト雖モ反對ノ證據ナケレハ組合ニ寄托セラレタル財産ト見做サ、ルナリ然レトモ全ク組合ニ關係セサルコトヨリ組合ノ一人カ得タル財産又ハ組合ニ關係スルモ其人ニ限りテ得タル財産ノ如キハ之ヲ組合財産中ニ組ミ込ムコトヲ得ス例へハ一人ノ佛人ト二人ノ亞米利加人ト組合テ船舶ヲ所有シ居リタルニ海上英國ノ搜索船ノ爲メニ捕ヘラレタルトキ英國ヨリ特ニ右二人ノ亞米利加人ノミニ限リ償ヲ與ヘタルコトアリ此場合ニ於テ佛人ハ其償金ノ分配ヲ受ケント請求スルコトヲ得スト判定セラレタリ又組合員ノ一人カ財産ノ賃借主ニテ更ニ之ヲ組合營業間其使用ヲ許シタルトキノ如

キハ組合解散ノトキハ其賃借權ハ組合ニ於テ之ヲ他へ賣却セント求  
 ムルヲ得ス必ス其組合員へ戻ル可キモノトス  
 組合解散後ニ得タル財産ハ假令義務取纏中ト雖モ必スシモ組合ニ屬  
 スルモノト云フヲ得ス其得タル組合員ノモノト爲スヲ得ヘキナリ例  
 へハ組合員二人アリ一人ハ婦人ニテ他へ嫁シタルヨリ此ニ組合ハ解  
 散シタレトモ尙其婦人ハ従前ノ通り營業ヲ爲シ他ノ組合員ハ解散前  
 ヨリ永ク他國ニ在リテ留守ナリシカ突然歸リ來リテ婦人カ現有スル  
 所ノ財産ハ即チ組合營業場ニ現在スルモノハ殘ラス組合ノモノナル  
 カ故組合ノ一人トシテ之レニ加ハラント主張セリ然レトモ裁判所ニ  
 於テハ控訴ノ未解散ノ前後ニ由リ財産ヲ正分シ解散マテノ財産ハ組  
 合ノモノト云フヲ得ヘキモ解散後婦人一人カ得タル財産ヲモ組合ノ  
 財産トナスハ當ヲ得タルモノニ非スト判定セラレタリ

附言

代理人及  
賣買請負  
人職權ノ  
件

事實

以テエーハ其責任ナシト判決セリ  
因曰 六ヶ月ノ期限ヲ短縮シ六十日トナシテ約束手形ヲ作りタル  
モノナルヲ以テ其所爲ハ委任權内ニアルモノ、如クナレトモ本人  
ハ最初六ヶ月ト定メテ委任權ヲ與ヘシモノナルカ故ニ畢竟此判決  
アリタルモノナリ

〔第六〕 代理人及賣買請負人職權ノ件

オゾルン對マキシー(Odiorne v. Maxcy, 13 Mass. 178; 1 Am. L. C. 664

一千八百十六年) マサチユーセット上等裁判所ニ於テ始

審ノ控訴ニ係ル判決

〔事實〕

此ニ二箇ノ約束手形ト之レニ關係セル甲乙兩人アリ而シテ  
其約束手形ノ受取人ハ木綿製造會社ニシテ被告マキシーハ其會社ノ  
一人ナリ甲ハ二箇ノ約束手形ヲ作り會社ヲ以テ其手形ノ受取人トシ

又該會社ノ代理人即チ賣買請負人タル乙者ハ會社代理人ノ資格ヲ以テ其二枚ノ約束手形ニ裏書シテ之ヲ原告ニ流通セリ

說明 此關係ヲシテ一層明白ナラシメンカ爲メニ左ニ之ヲ記ス

(甲) 仕拂人、會社ノ一般代理人

(乙) 會社ノ一般代理人、裏書人

(會社) 受取人

(原告) 手形所持人

元來此約束手形ノ出來タル所以ハ初メ甲ハ原告ヨリ鐵ヲ買受ケ而シテ其代價トシテ約束手形ノ二枚ヲ渡サントセリ然ルニ原告ハ請フテ其手形ニ裏書人一人ヲ求メタリ此ニ於テ甲ハ先ツ其手形受取人ヲ會社ト爲シ會社代理人ナル乙ヲシテ裏書セシメ以テ之ヲ原告ニ渡セリ然ルニ元來乙ハ始終會社ノ賣買請負人即代理人トシテ常ニ木綿製造

謂言

人解對  
賣買請負  
升野人又

事實

ニ必要ナル綿類又ハ其製造シタル反物ヲ賣買セリ又該約束手形ノ仕拂人ナル甲モ亦會社ノ代理人トシテ社務ニ從事シ居タリ而シテ本件ニ於テ訴訟ノ問題ト爲リシ約束手形ハ木綿ヲ買入レシ代價ヲ拂フ代リニ作りタルモノニアラスシテ鐵ヲ買ヒ取リシ代價ヲ拂フ代リニ作りシカ之ニ對シテ會社ハ責任アリヤ如何ト云フニ在リ

始審判事  
ノ裁定

(始審判事ノ裁定) 始審判事曰ク乙ハ會社ノ代理人ノ資格ヲ以テ其約束手形ニ裏書セシヲ以テ其本人タル會社ハ其責任ヲ負ハサル可カラスト

控訴原告  
ノ申立

(控訴原告人ノ申立) 始審ノ被告ナル會社ハ再審ノ訴ヲ爲シテ曰ク乙ノ代理權ハ唯木綿製造會社ノ物品ヲ賣買スルノ職權アルノミ然ルニ鐵ヲ買ヒシ代價ノ爲メニ作りシ手形ニ裏書セシハ全ク職權外ノコトナリ又鐵ヲ買ヒタルコトハ甲者一己ノコトニシテ會社ノ敢テ與リ知

ル所ニアラス是ナモ猶會社ニ責任アリトスレハ甲者ニシテ船ヲ買ヒ  
 或ハ土地ヲ買ヒ又ハ緣故ナキ他人ノ負債ヲ辦償スル爲メニ付テノ手  
 形ヲ作ルモ矢張會社ニ其責任アリトセサル可カラス是レ固ヨリ不可  
 ナリ甲ハ其會社ニ關係セル事ノミヲ爲スノ代理權アリト雖モ自身一  
 己ニ關スル事柄ヲ爲シ以テ其責任ヲ會社ニ負ハシムルヲ得スト

控訴被告  
 人ノ答辯

(控訴被告人ノ答辯) 被告答辯シテ曰乙ハ會社一般普通ノ代理人ニシ  
 テ特定ノ委任權ヲ與ヘラレタル者ニ非ス且甲モ常ニ會社ノ賣買請負  
 ヲ爲セシモノナレハ甲乙二人共ニ會社ノ代理人ナリ其代理人タル甲  
 ニシテ鐵ヲ買ヒシハ何ニカ會社ニ必要アリテノ事ナル可シト信シテ  
 爲シタル取引ナリ此時其手形ハ設ヒ自身一己ノ負債ノ爲メニ作リタ  
 ルニモセヨ甲ハ既ニ會社一般ノ代理人ナルヲ以テ其爲シタル事柄ニ  
 付テハ飽マテモ本人タル會社ハ其責ニ任セサル可カラスト

(判決) 甲ノ鐵ヲ買入ル、ニ當リテハ會社ノ名義ヲ用キタルニ非ス且  
 甲自身一己ノ用向ノ爲メニシテ會社ノ所用アルニ非サルモノ、如シ  
 然レハ本人ナル會社ハ其約束手形ノ金額ヲ拂フノ責任ナシ尤モ甲乙  
 兩人ハ會社一般普通ノ代理人ニハ相違ナシト雖モ其代理權内ニハ甲  
 自身ニ負ヒシ所ノ借金ニ就キ會社ヲ保證人トナス爲メニ裏書ヲナシ  
 テ手形ヲ流通セシムルノ權ナキモノニシテ全ク此等ハ甲乙二人ノ職  
 權外ノコトナリトス凡普通代理人ノ職權ナルモノハ決シテ無限ノモ  
 ノニアラス必スヤ其司務ニ必要ナルコトノミニ限ルモノトス凡ソ代  
 理人ノ所爲ハ會社ノ當然爲ス可キ營業事務ノコトニ付テハ固ヨリ會  
 社其責ニ任ス可シト雖モ會社營業外ノコトニ關シテハ決シテ責任ナ  
 キモノトス

〔第七〕 代理人委任權ノ範圍ニ係ル件

代理人委  
任權ノ範  
圍ニ係ル

事實

マツクリユール對リチャルドソン (Maclure V. Richardson) Rice  
215; 1 Am. L. C. 667

一千八百三十九年南カロライナ州控訴院判決

(事實)

原告マツクリユールハ一艘ノ河舟ヲ所有シ專ラ自分ノ綿ヲキ  
ヤアレストンノ海港ニ運搬スルノ用ニ供セリ但積荷ノ不足ナルトキ  
ハ傍ラ他人ノ綿ヲモ積載セ通例ノ賃錢ヲ受取タリ又船長甲ナル者ア  
リテ此舟ヲ管督セリ然ルニ通常他人ノ綿ヲ該船ニ托スルヤ船長ニ行  
カスシテ直ニ船主ノ許ニ至リテ商議シ其承諾ノ上ニテ荷積スルヲ例  
トセリサテ本件ノ起ル場合ニ於テヤ被告リチャルドソンハ甲船長ノ  
所ニ至リ綿ノ運送ヲ托セント欲シ因リテ問フテ曰ク必スシモ船主ノ  
許可ヲ得ルニアラスハ荷物ヲ托スル能ハサルヤト(因ニ云フ船長ハ時  
ニ乙丙ノ綿ヲ積込ミ居レリ乙丙ハ蓋船主ノ承諾ヲ得タル者ナリ)船長

始審被告  
ノ抗辯

甲ノ曰ク此際別ニ船主ノ承諾ヲ得ルニ及ハス且船主ハ遠行シテ不在  
中ナレハ自分ニ於テ宜シク之ヲ取計ヒ乙丙ノ荷物ト共ニ積送ルヘシ  
ト於是被告ハ綿十俵ヲ托シテ積込ミタリ然ルニ該船航行スル途中ニ  
テ船員ノ過失ヨリ火ヲ失シ遂ニ被告ノ綿四俵ヲ燒失セリ他二俵モ亦  
損害アリタル爲メ之ヲ他船ニ遷シタリ其後又暴風起リテ半燒ノ二俵  
モ亦沈没シテ海底ノ藻屑ト消エ失タリサレハ安全ニ到着シタルハ唯  
残り四俵ナルノミ故ニ始審裁判所ニ於テ被告ハ原告ニ對シ右六俵ニ  
對スル綿ノ代價ヲ訴ヘ出タルナリ

(始審裁判所ニ於ル被告ノ抗辯)原告ノ主張スル所ニテハ甲船長ハ被  
告ノ代理人ナレハ其所爲ニ付責任アリトスレトモ元來被告船長トノ  
間ハ普通ノ賃錢ヲ受ケ他人ノ荷物ヲ運搬スル船主ト其代理人タル船  
長トノ關係アルニアラス船長甲ハ唯被告ノ命令ニヨリテ船ノ荷物ヲ

積送ルヘキ委任權アルノミニテ被告ニ於テ之ヲ命セサルトキニ他人ノ托ヲ受ケテ積荷ヲナスノ權ナシ故ニ若シ荷物ノ運送ヲ托セント欲スル者ハ宜シク被告ニ就キテ之ヲ商議スヘシ而シテ被告ハ更ニ之ヲ船長ニ命シテ荷物ヲ積込マシムヘシ然ラサルモノハ被告ニ於テ其責任ヲ負フヘキ理由ナシサレハ本件ニ於ル原告ノ申立ハ甚タ不當ナリト抗辯セリ

要之此事件ノ問題ハ被告ノ從來取引シタル仕方則チ慣例ハ如何ナル處ニ及フヘキカ又船長甲ハ代理ノ委任權アリヤ否ヲ決スルニアリ因リテ裁判官ハ證人ヲ召喚シテ吟味シタルニ一人ハ曰ク自分ハ嘗テ被告ノ船ニ依リ綿ヲ積出シタルヲアリ其節ニハ通常ノ賃錢ヲ出シ船主ニ就キテ之ヲ托セリ是蓋シ被告ノ慣例ヲ述ブルモノナリ他ノ一人曰ク自分被告ノ不在中嘗テ船長ニ商議シ積荷セシトアリト船長甲曰ク

萬國法律週報發行廣告

每週金曜日出版●一冊定價金四錢五厘●八冊豫約前金三十貳錢●十六冊同六拾錢●三十二冊前金壹圓八錢●六十四冊同壹圓九拾錢●但東京區外并各地方遞送ハ別ニ一冊ニ付郵稅壹錢宛申受ケ候●郵便切手代用ヲ禁ス

主筆 英吉利法律學校幹事兼講師 法學士 正七位 渡邊安積

今ヤ我日本帝國ハ條約改正ヲ決行シ全國ヲ開放シ外人ノ雜居ヲ許シ裁判權ヲ恢復シ内外人ヲ問ハス一律ニ我國法ヲ以テ之ヲ處セントス是レ實ニ我國ヲシテ文明國ノ列ニ加ヘ眞正獨立ノ一帝國タラシムル者ニシテ我國民タル者各應分ノ力ヲ出シテ以テ國家ニ盡スヘキノ期ハ抑モ今日ヨリ急且切ナルハナシ就中法律學ヲ以テ己レカ職トスル者ニ至リテハ須ク其技能ヲ盡シ一方ニ於テハ我國法律ノ改良ヲ補翼シ他ノ一方ニ於テハ同胞三千七百萬人ヲシテ法律上ノ智識ヲ涵養セシムルコトヲ勉メサルヘカラス法學士渡邊安積先生大ニ茲ニ慨スル所アリ英吉利法律學校諸氏ノ補助ヲ借リ萬國法律週報ヲ發行シ以テ聊カ前述ノ本分ヲ盡サントスルノ舉アリ乃チ本店ニ於テ之ヲ發行シ廣ク國內ニ頒布セント欲ス

明治十九年十一月

萬國法律週報發行所

法律書店 錦水堂

○英船ノルマントン號 沈没ニ付  
キ廣告

英國商船法 正 價

今般英船ノルマントン號沈没ニ付キ船  
長ノ義務責任ニ關シ攷究ヲ要スル論ヲ  
俟タス幸ニ法學士山田喜之助氏譯  
述英國商船法ハ此事ヲ論スル最モ詳カナ  
レハ有志者ノ一讀ヲ煩ス

英國私犯法三版 正 價

ノルマントン號沈没ニ付キ死者ノ遺族ヨ  
リ民事私訴ヲ起シ損害賠償ヲ要求シ得ヘ  
キトニ關シテハ帝國大學法學協會  
ニ於テハ英國カンペル條例ニ於テ其權  
アルヲ可決シタリ幸ニ英國私犯法增訂  
第三版第二卷第六編ヲ精讀セラヨ又特ニ  
第四百四十丁ヲ注意セラレヨ 山田先生  
ハ發トニ此事ヲ確論セリ

東京々橋區三  
十間堀壹丁目 九 春 堂

萬國法律週報廣告

今般萬國法律週報發兌候ニ付校  
外生諸君ノ爲メ錦水堂ト特約ヲ  
結ヒ八冊前金貳拾四錢ヲ以テ賣  
渡シ候但シ東京區外ハ壹冊ニ付  
郵税金壹錢ヲ申受ケ候

萬國法律週報第壹、貳、參、四、五、六、七、八、九、  
十號出版セリ○第壹號目次○法理學○  
私犯法○不完全義務ノ約定○英吉利制定  
法撮要○判決例并註解○英國狀師增島六  
一郎君「ノルマントン」號事件ノ演說○攻  
法會記事○討論筆記○雜件○第貳號目次  
○私犯法○判決例并註解○非戶主子弟  
ノ財產權(山口正毅)○判事登用試驗英國  
賣買法解釋(法學士高橋捨六)○法學士江  
木衷君法學指針ノ演說○討論筆記○雜件

英吉利法律學校

○第一科教課及受持講師姓名

第一學年

一法學通論每週一時法學士 山田喜之助  
 一契約法全二時法學士 土方寧  
 一私犯法全上法學士 奧田義人  
 一親族法全一時法學士 山田喜之助  
 一日本刑法全上法學士 岡山木兼吉  
 一代理法全上米國法律學士 菊池武夫  
 一動產委託法全上法學士 元田肇  
 一組合法全上法學士 松野貞一郎  
 一英語學全上菅沼達吉  
 ●英國刑法全上法學士 澁谷惟忠  
 ●論理學全上法學士 坪井九馬三  
 ●馬法全上法學士 渡邊安積  
 ●判決例學全上法學士 植村俊平  
 ○理財學全上法學士 駒井重格  
 ○第二學年  
 一賣買法每週一時法學士 高橋捨六  
 一不動產法全上法學士 伊藤悌治  
 一動產法全上法學士 山田喜之助

○ハ參考科

一財產法全上法學士 增島六一郎  
 一證據法全上法學士 渡邊安積  
 一會社法全上法學士 植村俊平  
 一流通證書法全上法學士 土方寧  
 一商船法全上法學士 高橋健三  
 一治罪法全上法學士 松野貞一郎  
 一訴訟法全上法學士 增島六一郎  
 一民擬律擬判全上米國法律學士 菊池武夫  
 一刑決例全上法學士 土山重明  
 一判決全上法學士 植村俊平  
 一英語學全上菅沼達吉  
 ●英國法律全上米國法律學士 シドモル  
 ●民訴訟演習全上三阪繁人  
 ●刑民訟演習全上工藤則勝  
 ●法理學全上法學士 關直彦  
 ●成法理論全上法學士 高橋健三  
 ●保險法全上法學士 伊藤悌治  
 ●國際公法全上法學士 植村俊平  
 ○第三學年  
 一財產法全上法學士 增島六一郎  
 一破產法全上法學士 戶水寛人

去學士高橋舎六先生著

一 訴訟 法全上 法學士 增島六一郎  
 一 保險 法全上 法學士 伊藤悌治  
 一 衡平 法全上 法學士 土方寧  
 一 沿革法理學全上 法學士 增島六一郎  
 一 分析法理學全上 法學士 關直彦  
 一 羅馬法全上 法學士 渡邊安積  
 一 國際公法全上 法學士 植村俊平  
 一 國際私法全上 法學士 山田喜之助  
 一 判決例全上 法學士 植村俊平  
 一 民擬律擬判全上 法學士 菊池武夫  
 一 英語學 理學士 高須碌郎  
 一 憲法全上 法學士 植村俊平  
 一 行政法全上 法學士 江木衷  
 一 米國法律全上 法學士 シンドモール  
 一 動産差押法 法學士 ぼりすさる  
 一 訴訟演習全上 法學士 三藤繁人  
 一 第二科教課及受持講師姓名  
 一 第一學生 山田喜之助  
 一 英法註釋 每週一小時 法學士 山田喜之助

一 契約 法全上 法學士 土方寧  
 一 契約 法全上 同 人  
 一 契約 法全上 同 人  
 一 私犯 法全上 米國法律學士 小村壽太郎  
 一 私犯 法全上 同 人  
 一 私犯 法全上 同 人  
 一 代理 法全上 米國法律學士 菊地武夫  
 一 代理 法全上 法學士 元田肇  
 一 動産委託法全上 法學士 山田喜之助  
 一 親族 法全上 法學士 山田喜之助  
 一 親族 法全上 法學士 松野貞一郎  
 一 組合 法全上 法學士 澁谷慥爾  
 一 訴訟 法全上 法學士 澁谷慥爾  
 一 英國刑法全上 同 人  
 一 英國刑法全上 同 人  
 一 商法全上 法學士 伊藤悌治  
 一 商法全上 法學士 伊藤悌治  
 一 法律原論全上 法學士 藤田隆三郎  
 一 法律原論全上 法學士 澁谷慥爾  
 一 論理 學全上 支學士 坪井九馬三

法學士高橋捨六先生著  
**英米身分法** 洋製美本全一冊  
定價九拾錢

十月廿五日發兌

身分法とは一に親族法とも稱し婚姻離婚を始め夫婦親子後見人及び主人奴僕等に關する法理を網羅詳論せるものなり殊に本書は高橋先生一には專修學校の教科用ニ供せんが爲め況く英米の法典を參照し章を分て節とし節を分て則とし專はら簡易明解を主とせられたる著述なれば恰も一部の法典を見るに異ならず故に法律に志すの人は勿論苟も親たり夫妻たり後見人たる身分ある人は熟讀し賜ふべき良書たり尙購讀者諸君の便宜を計り目錄書并に見本を調製し置たれば左店の中へ貳錢郵券寄送次第進呈す

英吉利法律學校  
神田區表神保町一番地角  
教科書賣捌所  
**錦水堂**

**發賣所** 銀座三丁目  
**博聞社**

訴訟鑑定約定期算相談

ばりどる 法學士 增島六一郎 英米  
代理人 法律

ノ實地ヲ研究スルノ後 第一着 殊ニ然  
我訴訟ノ有様ヲ見ルニ 殊ニ然  
終ヒニ救フニ道ナ

キモノ少ナカラス 地方事件 依テ 通

信局 代言 鑑定辯護立 内外商業  
キ 社起業約定

取引等ニ關 相談 害失敗ヲ 未萌 助カテ爲  
シ當初ヨリ 社起業約定 未萌 助カテ爲

ントス 倫敦 ナル船舶輻輳ノ中央ニ於 衝  
且英國 倫敦 ナル船舶輻輳ノ中央ニ於 衝

突保險 等ニ關スル訴訟ハ專務 遠地ノ  
ニ之レヲ取扱ハントス 遠地ノ

君ト雖事件ノ情况ヲ 回答 セン但シ規則  
御記送アラハ急速ニ 回答 セン但シ規則

第進呈スヘシ 書ハ御申越次

東京日本橋區本局 横濱居留地出張所  
檜物町六番地 六十番館

法學士渡邊安積講義

アンソ  
氏契約法 第十四編 定價金拾錢  
郵稅金貳錢

第一、四、六、七、八、九、十一編ハ各八錢ツ、  
第二、三、五、十、十二、十三編ハ各拾錢ツ、  
アンソン氏契約法ハ英吉利契約書中最モ  
新シク最モ精覈ノモノニシテ英國大學校  
我帝國法科大學及英吉利法律學校等ニ於  
テ教課書トナス者ナリ本書ハ慣習法衡平  
法制定條例等ノ中ヨリ契約ニ關スル規則  
ハ悉ク網羅シ英國現行法ハ一モ洩ス所ナ  
シ●本書ハ先キニ出版ニ着手シタル以來  
大ニ江湖諸君ノ愛讀ヲ辱シ許多ノ冊數ヲ  
賣盡シタルニ不幸ニモ講義者事故アリテ  
久シク中絶ノ姿ニ相成リ愛讀諸君ヨリ頻  
リニ督促ヲ蒙リ恐縮ノ至リニ堪ヘス然ル  
ニ今日ヨリ再ヒ舊業ヲ繼キ續々殘編ヲ出  
版シ速ニ竣功スルコトヲ期スヘシ  
但初編ヨリ御入用ノ御方ヘハ全部取揃ヘ  
差出可申候

神田區神保町一番地

錦水堂

THE IGIRISU HORITSU

GAKKO TEXT-BOOK 英文法  
律書

第一、二、三、四、五號出版セリ

第五號目次○アンソン氏契約法○アンダ  
ーヒル氏私犯法○スミス氏訴訟法○マイ  
クビー氏法理原論○スミス氏商法

神田小川町通

神田錦町 英吉利法律學校 錦水堂

明治二十年一月十五日 (定價金貳拾錢)

持主 增島六一郎

印刷人 大谷木備一郎

編輯人 澁谷慥爾

發行所 神田錦町貳丁目貳番地

英吉利法律學校